



発行 福島東高等学校同窓会
 住所 福島市浜田町12-21 (024) 531-1551
 発行人 尾形幸男 先生
 編集 尾形幸男 先生
 印刷 尾形幸男 先生

同窓会の存在

福島東高等学校同窓会会長

尾形 幸男



平成二十二年に母校である福島東高校が創立三〇周年を迎えます。その実行委員会が十月に立ち上がりました。今まで行ってきた一〇・二〇周年記念行事は東高会様（父母と教師の会OB、OG）と、その当時の父母と教師の会様に主体になって行っていた。同窓会としては基本的に金銭的な部分のお手伝いという形で関わって参りましたが、三〇周年記念行事からは同窓会が主体となって実行委員会を運営していくこととなりました。（勿

論、学校側の協力があったからこそ）過去二回の記念行事が各関係者の御尽力により東高校の歴史を刻むために非常に意義のある行事となっており、今回その行事を引き継ぐことは同窓会にとっても大変光栄なことであると自覚し、役員一同身の引き締まる思いであります。

さて、私たちは今までの人生を振り返ってみると幼稚園（保育所）、小学校、中学校、高校、大学と卒業しそれぞれの同窓生となつていくわけですが、なかなか同窓生としてその活動に積極的に関わることは少ないのではないのでしょうか。東高同窓会の活動もここにきてようやく軌道に乗りだしたという状況ですが、当初、同窓生からお預かり

している入会金と会費の使い道の大きな目的は「同窓会館の設置」でした。しかし、同窓会館を設置するまでは、今後多くの年月を必要とし、敷地内に建物を設置するには様々な制約が存在するため、同窓会としてはその利用方法の方向転換を図りました。その大きな柱が「在校生支援」であります。同窓会という存在は、なかなか身近に感じてもらえない雰囲気もありました。それを少しでもなくすために、在校生時代に同窓会からの支援として、各部活動や学校行事に同窓会が関わっていることを生徒達に知ってもらい、身近に感じてもらうこと。更に「同窓会会報」を発行することにより、卒業してからも母校の状況をわかしてもらい同窓会活動に関心、理解と協力をしてもらえればと考えたわけでありました。私自身、このような職に就いていなければ同窓会への関心は薄かったような気がします。実際、ここまでの同窓会活動への働きかけは苦勞の連続でした。

各個人で取り巻く環境や考え方が違いますから、全ての同窓生が協力的ではありません。何度お願いしても解つてもらえず、落ち込んだり、更には高校時代に築いた友人関係にまでヒビが入ってしまったこともありました。今となつては、自分の人としての幅が狭かったためにそれらの方々にも辛い思いをさせてしまったなと反省をしています。しかし、昨年度も約四十五万円の応援基金があり、サポートして下さる同窓生が多いことも事実であります。また、そのサポートは同窓生だけでなく、我々の恩師の方々からも多くの激励を受けています。毎年各部活動の試合を観戦に行くと、何人かの同窓生や恩師と会うことができます。街でバッタリお会いすれば東高校の話で盛り上がりまします。ある意味、私たちよりも東高校に対する思い入れは強い方々だと感じています。私が頑張りながらも多くの方々の東高校への想いを大切にしなければと感じているからなのかもしれません。私は「福島東高校同窓会」というのは東高校を通して得た人間同士のつながりにより、今の自分の礎となつた東高校への「恩返し窓口」ではないかと思っています。ここにあるのは利害関係など存在しない純粹な感謝

だけであります。

今、同窓生の皆さんはそれぞれの環境の中で、苦しみもがきながら精一杯頑張っていることでしょうか。東高での生活を思い出すことはなくなっているかもしれませんが。しかし、この母校で三年間過ごしたことは事実であり、何かを感じながら卒業したのです。どうか、いつでも母校に足を運んでみてください。恩師はすでに転動していませんが、あんなの自分にも会えるはずですよ。

我々、同窓会役員は三〇周年記念行事実行委員会の役員として、この行事を成功に導かなければなりません。それには同窓生一人一人の協力が必要です。具体的には、記念行事の為に同窓生から多くの協賛金を募ります。そのために、今後も同窓会活動報告だけでなく、記念行事に向けた詳細な情報も発信していきますので、御理解、御協力の程よろしくお願いいたします。

最後に、今回の第五号発刊にあたりましては、多くの方々から執筆等、御協力をいただいております。これも、東高と同窓会の更なる発展に期待をしていただいているものと真摯に受け止めて、活動を盛り上げていきたいと思っております。

文武両道にチャレンジ!

福島東高等学校長 猪狩 幸一



同窓生の皆様にはご健勝で
過ごしのことと思います。平成
二十年四月、縁があつて本校に
勤務することになりました。前
任校はいわき市立中央台南中
校です。

四月から十二月までの本校生
の活動の様子と、私が感じたこ
と、考えたことなどを述べます。
平成二十年度は、二十九期生
三百十九名が入学し、生徒数九
百四十五名でスタートしました。
進学校である本校のモットー
は「文武両道」。言うは易く行
うは難しです。生徒諸君には
気を引き締めて、勉強に、そし
てスポーツ等に励んでほしいと
願っています。

いつも「さわやかに文武両道
を目指す東高生」、いつも「夢
や目標に向かって、日々努力・
チャレンジする東高生」、いつ
も「目がいきいきと光り輝いて
いる東高生」。それが私の願
いです。応援団として応援して
きたいと思ひます。

当たり前のことですが、学校
はあくまでも勉強する場。自分
から進んで、計画的に学習し、
しっかりと予習・復習をするこ
とが大切。家庭学習の習慣をつ
くりあげることが最重要である

とと考えています。
大多数の生徒諸君は、「若さ」
という力で、夢・目標に向かっ
て、「文武両道」にチャレンジ
しています。残念ながら、朝自
習・授業・週末課題等学習に対
する取り組みの甘い生徒が少し
見られます。また、家庭学習時
間調査を実施しましたが、目標
の「学年+1」時間という数値
にはほど遠く、三年生以外は不
十分な結果でした。
学習は受身的で、宿題・課題
しか学習しない?言われたこと
だけを学習するのではなく、自分
の計画に従って、主体的な学習・
自学自習を進めてほしい。まず
は勉強第一ということを念頭に
置き、毎日「意欲的に学ぶ生徒」
であってほしいと思ひます。
本校生一人一人には、豊かな
個性があります。考え方も一人
一人違いから、違う人がたく
さんいるから、楽しくてもおもしろ
いのではないのでしょうか?
楽しいはずの教室でも部活動
の場でも生徒間のトラブルが起
きます。意見が衝突したり、同
級生や先輩から何か言われたり
することがあります。人間誰し
も欠点はあるし、若い時は、自
分中心に物事を考えがちです。
毎日、個性と個性のぶつかり
合いが続くのかも知れませんが、
高い目標を目指しているのによ
むを得ないところがあるのでは
しょう。まずは、お互いに個性を認
め合い、個性豊かな「仲間を大
切にする生徒」であってほしい
と思ひます。

東高は、本当に部活動が盛ん
な学校です。平成二十年年度の部
活動入部率は全校生の八八%。
運動部に七〇%、文化部に一八
%の生徒が所属しています。
放課後になれば、校舎のあち
こちから、生徒諸君の明るい元
気な声が聞こえてきます。各部
とも毎日意欲的に練習に取り組
み、仲間とともに、コツコツと
努力しています。部活動を通し
て、「心と身体を強くたくまし
く鍛える生徒」であってほしい
と願っています。
本年度のインターハイ地区大
会・県大会においては、各部と
も素晴らしい成績を収め、大活
躍を素晴らしました。東北大会は、
バスケットボール部男子、柔道
部(個人)、剣道部男子・女子
(個人)、陸上部(四種目)、水
泳部(二種目)が出場、インター
ハイ全国大会(埼玉総体)には、
バスケットボール部男子、柔道
部(個人)が出場しました。二
つの部とも精一杯の活躍しま
した。全国の壁は厚く、上位
進出は果たせませんでした。
夏の高校野球では、七月十九
日、信夫ヶ丘球場でベスト8を
かけて学法石川高校と対戦しま
した。全校生による初めての心
援でした。球場は、大声援、大
歓声、大きな拍手そして溜め息
に包まれました。猛暑の中、選
手も全力を出し切り、見事な戦
いぶりでした。みんなが燃えた
最高の夏でした。
秋の全国高等学校サッカー選
手権大会福島県大会決勝戦も忘
れることができません。十一月
一日、Jヴィレッジスタジアム
で全国出場をかけて富岡高校と
対戦しました。バス十三名で生
徒五百名余り、教員三十名余り
が駆けつけ、一糸乱れぬ心援で

**** ご注意下さい! ****

同窓会事務局を名乗る電話が同窓生の自宅にかかってくるという苦情が学校に寄せられることがあります。同窓生の携帯電話の番号や現住所を聞くことが多いようです。事務局では一切このような電話をしておりませんので注意して下さい。なお、このような場合、「東高に確認してみます」と対応して下さい。

同窓会からの連絡は郵送です。電話等による問い合わせは原則的にはしません。どうしても電話連絡が必要な場合は、東高あてに掛け直してもらっています。

東高の電話番号は
024-531-1551 です。

選手を鼓舞しました。残念なが
ら試合は惜しくも負けてしま
いましたが、本校の応援は、ま
さに県一番の応援だったと思
います。また、ノーサイドから決勝
まで勝ち進んだ選手たちは本
当によくやったと思います。いい
試合でした。
文化部においては、第三十二
回全国高等学校総合文化祭に美
術部(個人)の作品が展示され
ました。他の文化部も作品展や
各種コンクール・定期演奏会
などでそれぞれ素晴らしい作品や
猛練習の成果を発表しました。
今年も様々な学校行事が行わ
れました。いっつもの何事にも一生
懸命に取り組む生徒の姿が数多
く見られました。夏期スポーツ
大会では、クラスが一つになり、
おそろいのTシャツで頑張りました。
東校祭のステージ発表では、
手作りの衣装やセットなど趣向
を凝らし、歌やダンスに、猛練
習の成果がよくでており、生徒
一人一人が光り輝いていました。
いよいよ入試の季節。十二月
十日現在、指定校推薦入試、国
公立大学一般推薦入試、AO・
自己推薦入試を受験して大学・

短大に二十四名、専門学校に十
一名、公務員に二名が合格。ま
もなくセンター試験。三年生の
九三%二百九十一名が受験予定。
三年生諸君には、自信を持って、
ベストコンディションで、そし
てリラックスして試験に臨んで
ほしいと思ひます。
最後に、同窓会の皆様のご支
援・ご協力に心より感謝申し上
げます。総合学習「さまざまな
職業人に聞く」では、今年度も
数多くの同窓生の方々に講師を
お願いし、高校時代の体験を含
め、職業への熱い思いをお話
しいただきました。また、部活動
関係では、トレーニンングマシ
ンや全国大会出場部への激励金、
定期演奏会補助など、数多くの
支援をいただきました。生徒た
ちも先輩の皆様の母校に対する
熱い思いや温かいご支援に感謝
しながら、同窓会という組織の
力の大きさを感じていること
と思ひます。まもなく創立三十周
年を迎えます。同窓会の皆様
には、記念行事の開催などお世話
になることが数多くあると思
います。今後とも皆様のご支援・
ご協力をお願い申し上げます。

福島県立福島東高等学校同窓会規約

[名称および事務局]
第1条 本会は福島県立福島東高等学校同窓会と称し、事務局を福島東高等学校内におく。

[目的および事業]
第2条 本会は会員相互の親睦を図り、母校の発展に寄与することを目的とする。

第3条 本会は次の事業を行う。
1. 総会の開催
2. 会員名簿・会報の発行
3. 母校の後援
4. その他本会の目的達成に必要な事項

[会 員]
第4条 本会の会員は、本校卒業生並びに本校の退転校者で総会に承認された者とする。

[役 員]
第5条 本会に次の役員をおく。
1. 会 長 1 名
2. 副会長 4 名
3. 理 事 若干名
4. 監 事 3 名
5. 幹 事 若干名
第6条 役員は次のとおりとする。
1. 会長・副会長および監事は会員中より理事会において推薦し、総会で決定する。

2. 幹事は卒業年次毎に各クラスから2名を互選する。
3. 理事は幹事の中から会長が任命する。
第7条 役員は次のとおりとする。
1. 会長は本会を代表し、会務を総理する。
2. 副会長は会長を補佐し、会長事故ある時は職務を代行する。
3. 理事は会の運営にたずさわり、会務を処理する。
4. 監事は会計を監査する。
5. 監事は他の役員を補佐し、会務運営の推進をはかる。
第8条 役員は任期は2年とし、再任を妨げない。

[顧問]
第9条 本会に顧問をおく。顧問は会長が委嘱し、会長の諮問に応ずる。

[総 会]
第10条 総会は会長が召集し原則として年一回開く。ただし、会長が必要と認めた時は臨時総会を開くことができる。

第11条 総会では次の事項を審議し決定する。
1. 事業報告並びに決算の承認
2. 事業計画並びに予算の承認
3. 役員選出
4. 規約の改廃
5. その他重要な事項

第12条 総会の議事は出席者の過半数を持って決定する。
第13条 総会はその権限の一部を理事会または会長・副会長・監事で構成される役員会に委任することができる。

[理事会]
第14条 理事会は会長・副会長・監事・理事をもって構成する。
第15条 理事会は会長が召集し、本会運営上必要な事項を審議・決定するとともに本会の業務の執行にあたる。

[事務局]
第16条 事務局は関係表簿を備え、庶務、会計を執行する。
第17条 事務局はその業務の一部を母校職員に委嘱することができる。

[会 計]
第18条 本会の経費は入会金・終身会費・寄付金・その他の収入でまかなう。
第19条 本会は入会に際し、入会金2,000円・終身会費3,000円を納入する。
第20条 本会の会計年度は4月1日より翌年3月末日までとする。
第21条 年度会計決算ならびに年度予算案は会長・副会長・監事の了承をもって総会の承認にかえることができる。

附 則 この規約は昭和58年2月28日から施行する。
この規約は平成17年2月26日から改正する。

平成19年度 歳入歳出決算書

歳入金額 3,452,251円
歳出金額 3,397,412円
差引残額 54,839円

1. 収入の部 ▲は減少 単位：円

Table with 7 columns: 項目, 当初予算額, 繰入額, 現計予算額, 決算額, 増減, 備考. Rows include 入会金, 会費, 前年度繰越金, 雑収入, 同窓会積立金, 東高応援基金, 合計.

2. 歳出の部

Table with 6 columns: 項目(科目), 当初予算額, 流用額, 現計予算額, 決算額, 残額, 摘要. Rows include 総務費, 会議費, 旅費, 需用費, 総会費, 運営費, 事業費, 卒業記念品, 広告費, 会報費, 印刷費, 通信費, 会報郵送費, 情報保護費, 通信費, 在校生支援費, 在校生支援事業, 公開文化祭後援費, 予備費, 合計.

* 項目科目間の流用を認める。

平成20年度 歳入歳出予算書

歳入金額 2,721,000円
歳出金額 2,721,000円
差引残額 0円

1. 収入の部 ▲は減少 単位：円

Table with 5 columns: 項目, 20年度予算額, 19年度予算額, 比較増減額, 備考. Rows include 入会金, 会費, 前年度繰越金, 雑収入, 同窓会積立金, 東高応援基金, 合計.

2. 支出の部

Table with 5 columns: 項目(科目), 20年度予算額, 19年度予算額, 比較増減額, 備考. Rows include 総務費, 会議費, 旅費, 需用費, 総会費, 運営費, 事業費, 卒業記念品, 広告費, 会報費, 印刷費, 通信費, 会報郵送費, 情報保護費, 通信費, 在校生支援費, 在校生支援事業, 公開文化祭後援費, 予備費, 合計.

* 項目科目間の流用を認める。

創立三十周年記念行事概要の説明について

総務委員会 庶務 今野 充宏 (二期生)

一 はじめに
昭和五十五年に創立されて以来、三十年の節目を迎えようとしている我が母校。

私は二期生なのでプレハブで授業を受けたことはありませんが、入学当初、校舎は本校舎中央階段より東側部分だけ、体育館はなく、格技場だけが立っていました。当然、プールもない。グラウンドの三分の一は雑草地。創立時から「文武両道」が掲げられ、「東高生は勉強と部活を頑張るんだ！」といつも先生方から叱咤激励されていました。新しい学校をつくるんだという意欲だけが、満ちていた学校でした。

私は、東高の先生方から数知れない程の御恩を受けました。斎藤和也先生の日本史の授業には時空を超えて歴史の現場に立つ臨場感を味わわせていただきました。長久保宏人先生は放課後に二次試験対策の世界史を個別指導して下さいました。星本文先生は授業中に生徒と本気で議論をしたため、しばしば授業がつぶれることがありました。大会前日にケガをした時、剣道部だった私とは関係のない陸上部の片平俊夫先生が、夜遅くまで、病院につきあって下さいました。最新の大会、体調を崩した私を橋本邦夫先生は病院につれて行って下さり、点滴を受けてから試合に出場することができました。そして、浪人中の夏

休み、予備校ではどうしても理解できなかった化学の有機分野を、菅野和昶先生は長い時間をかけて教えて下さいました。ここには書くことができないほど多くの先生方にお世話になりました。もし、東高がなかったら私は違った人生を歩んでいたと思います。

創立準備から東高に関わられ、その後、教諭、校長としても勤められた斎藤和也先生は、「東高には二つの文化がある。一つは生徒が受け継いでいく文化、つまり文武両道。二つは先生が受け継いでいく文化、つまり面倒見の良い学校。」ということをよく言われる。東高はこの三十年、この「二つの文化」を守り育ててきました。今の東高生は勉強に、部活動に全力で打ち込んでいます。文武両道を掲げる学校はたくさんありますが、一人の生徒が「文武両道」を実践することこそが東高の伝統です。教員として東高の先生方を見てみると、朝から晩まで、しかも休日に関係なく生徒とこれほど関わっている学校が他にありません。東高の後輩たちは幸せだと思ふ。そして、多くの生徒が自分では気付かないうちに先生方に自己の隠れた能力を引き出してもらい、羽ばたいていっているように思ふ。本当に面倒見の良い学校だと思ふ。まさに、東高は「二つの文化」が継承さ

れ、見事に花開いている学校なのです。

今回、記念行事を行うにあたり、在校生がよりよく東高での生活を過ごすことができるように、つまり、一人でも多くの後輩が東高で自分の可能性を開くことができるように、ということを念頭において数々の事業を考えています。まだ、実行委員会が発足して間がなく、今後に変更されることも多いかと思いますが、現在、決まっている内容を報告させていただきます。

二 創立三十周年記念行事の基本的なコンセプト

創立三十年という一区切りにあたって、東高関係者を中心に祝い、これからの東高の躍進、永続的な発展にむけて出発すること
在校生の学校生活がより有意義となるよう事業（在校生支援事業）を行うこと
東校友会、東高会の協力をえながら、父母と教師の会、同窓会、学校が協力して事業を行うこと
同窓生が高校時代を振り返り、今後の活力となる契機とすること

三 事業の内容（今後変更される可能性があります）

- I ... 三十年記念誌の刊行
 - II ... 記念CDの作成
 - III ... 校歌額の作成
 - IV ... 生徒教職員記念品
 - V ... 在校生支援事業
 - 吹奏楽部の楽器購入
- 現在の吹奏楽部の楽器が整備されたのは、平成七年の福島国

創立30周年記念行事 今後の日程案

*以下の日程は事務局案であって、詳細等は関係各部によって決定されるものである。
*平成十九年度から前教務主任を中心に事務局案の検討が進められていた。

平成20年	9月5日(金)	第1回事務局打ち合わせ
	9月12日(金)	第2回事務局打ち合わせ
	9月19日(金)	校務委員会にて記念行事案を検討
	9月26日(金)	実行委員会準備委員会
	9月29日(月)	東高職員会議にて記念行事概要を提案
	10月24日(金)	第1回実行委員会
		・役員、委員会発足
		・役員、委員の委嘱
	11月18日(火)	第2回実行委員会
		・第2回専門委員会
		(委員会の職務の詳細を決定)
	11月20日(木)	東高職員会議に報告
	11月22日(土)	東校友会総会(東校友会への協賛金依頼開始)
平成21年	12月上旬	同窓生への協賛金依頼開始
	2月13日(金)	第3回実行委員会
		・第3回専門委員会
		(次年度への引継ぎ)
	5月中旬	第4回実行委員会
		・新役員、委員の委嘱
	9月5日(出)	東校友会(一般公開)
	9月中旬	「様々な職業人に聞く」県内編
	9月下旬	同窓生への協賛金依頼(2回目)
平成22年	2月中旬	「桜美展」支援
	4月中旬	「桜梅戦」支援
	5月上旬	「吹奏楽部定期演奏会」支援
	6月25日(金)	午前「様々な職業人に聞く」県外編と午後「記念式典・記念講演」(樋口達哉さん)
	7月下旬	祝賀会
	7月下旬	合唱部定期演奏会(2)支援
	7月下旬	最終実行委員会
		・会計決算報告
		・最終専門委員会(反省)
		・委員会の解散

体のとき。それから十年以上を経過し、これを機会に吹奏楽部に必要な楽器を購入したいと考えている。(予算三〇〇万円)
グラウンド照明施設の整備
グラウンドの照明が非常に暗い。これでは、照度不足のために生徒がケガをする恐れが多い。照度を上げたいと考える。また、補修用の土も購入したいと考える。グラウンドを使用する部活動に、少しでも良い環境で練習に取り組ませたい。(予算二五〇万円)
進路指導システム化支援(生徒学習指導情報システム「データベース開発」)
学校の生徒に関するあらゆる情報を一元的に管理できるシステムの開発を
平成二十一年
九月 公開文化祭「東校友会」支援
九月 「様々な職業人に聞く」(県内編)
平成二十二年
二月 桜美展支援

創立30周年記念行事実行委員会予算(案)9.12

収入	16,360,000円
支出	16,360,000円
残額	0円

【収入の部】	20周年決算額	予算額	増減	摘要
記念事業費	4,155,000	5,640,000	1,485,000	平成21年度3,000円×940名、平成22年度3,000円×940名
P.T.A基金	3,000,000	0	-3,000,000	
同窓会基金	3,006,604	0	-3,006,604	
協賛金(同窓生)	3,739,300	8,000,000	4,260,700	
協賛金(企業)	208,890	200,000	-8,890	東高と関係のある企業への協賛金依頼
協賛金(実行委員)	459,220	450,000	-9,220	*実行委員に募金活動をお願いする
協賛金(東校会・旧職員)	1,121,710	1,100,000	-21,710	
協賛金(現職員)	735,000	730,000	-5,000	
協賛金(その他)	500,000	200,000	-300,000	東高会、その他
記念誌代	1,156,350	20,000	-1,136,350	*希望者に販売するが、ほとんど利益はない
雑収入	371,616	20,000	-351,616	前回残、利子など
合計	18,453,690	16,360,000	-2,093,690	

【支出の部】	20周年決算額	予算額	増減	*摘要は20周年記念事業のもの
総務委員会費	1,857,604	2,080,000	222,396	
旅費	0	10,000	10,000	
需用費	1,806,464	2,000,000	193,536	録音会費、記念品、録音、CD制作費、感謝状、式典しおり等
役務費	51,140	60,000	8,860	式典案内状郵送料、礼状郵送料
会議費	0	10,000	10,000	
式典委員会費	334,334	370,000	35,666	
旅費	21,000	10,000	-11,000	式典送迎バス代
需用費	179,160	200,000	20,840	看板、装飾花、国旗、記章リボン等
役務費	134,174	150,000	15,826	公会堂使用料、楽器運搬代
会議費	0	10,000	10,000	
出版委員会費	5,809,125	2,820,000	-2,989,125	
旅費	0	10,000	10,000	
需用費	5,108,950	2,700,000	-2,408,950	記念誌出版費用
役務費	685,365	100,000	-585,365	記念誌郵送料等
会議費	14,810	10,000	-4,810	茶菓子代
事業委員会費	7,058,203	9,910,000	2,851,797	
報償費	967,570	50,000	-917,570	講演会講師謝金、講師記念品、青春歌謡曲贈り、青春歌入賞者図書券
旅費	12,184	20,000	7,816	講師旅費等
需用費	45,000	0	-45,000	青春歌パネル代等
役務費	162,300	50,000	-112,300	看板、公会堂使用料、チラシ
会議費	0	10,000	10,000	
工事請負費	5,179,100	0	-5,179,100	中庭整備・樺代
中庭備品費	392,049	0	-392,049	中庭表示板・クリンマット・人工芝・ベンチ等
進路指導システム支援	2,500,000	2,500,000	0	
グラウンド照明等整備	2,500,000	2,500,000	0	
吹奏楽部楽器補助	3,000,000	3,000,000	0	
様々な職業人に聞く運営費	600,000	600,000	0	
桜美展補助	100,000	100,000	0	
吹奏楽部定演補助	300,000	300,000	0	
合唱部定演補助	100,000	100,000	0	
ダンス部発表会補助	100,000	100,000	0	
桜梅戦応援補助	100,000	100,000	0	
東校祭補助	300,000	480,000	180,000	東校祭補助
事務局費	1,593,810	820,000	-773,810	
旅費	0	10,000	10,000	
需用費	349,638	700,000	350,362	角印・封筒・タックシール等、事務関係費用
役務費	891,689	100,000	-791,689	協賛金依頼文書、案内文書郵送料
会議費	352,483	10,000	-342,483	茶菓子代、反省会補助
予備費	6,000	360,000	354,000	協賛金返金など
これ以後の出費	1,776,840	0	-1,776,840	
合計	18,435,916	16,360,000	-2,075,916	

四月 桜梅戦支援
五月 吹奏楽部定期演奏会支援
六月 「様々な職業人に聞く」(県外編)
七月 合唱部定期演奏会支援
ダンス部発表会支援
VII・記念式典
*午前中「様々な職業人に聞く」(県外編)
日時 平成二十二年六月二十
五日(金) 午後一時三十
分から
場所 福島県文化センター
(未定)
記念講演 講師・樋口達哉
さん(六期生)
VIII・祝賀会
日時 平成二十二年六月二十
五日(金) 午後六時から
場所 ウェディングエルティ

同窓会在校生 支援募金のお願ひ

世界的不況といわれる現在、この福島東高校もまた不況の波にさらされ、福島県からの予算は大幅にカットされました。通常の教育活動にも問題が生じるほどです。例えばプリントを刷る紙代がないので、紙をかうのにも事欠く始末です。図書館の予算は県内の高校の中でも最低レベルです。電気代の節約のため、廊下の蛍光灯は一つ置きに抜かれています。そんな中で福島東高生たちは先輩のつくりあげた文武両道の伝統を守ろうと必死に頑張っています。そして、更に大変なことには、次年度か

ら創立三十周年記念事業が始まります。資金の点では問題が山積んでいます。そこで同窓生の皆様にお願ひしたいのは、このように苦しい時だからこそ、どうか先輩のためにお力をかしていただけないでしょうか。東高に通っていた時に感じた辛さ、苦しさを、家族や先生や先輩のおかげで救われたこともあったのではないのでしょうか。後輩もまた、もがき苦しみながら精一杯高校生活を送っています。誰かの支えが必要なのです。ですから同窓生の皆さん、今度は先輩のために福島東高校を支えていただきたいのです。

創立三十周年事業では同窓会として事業の協力(例えば「様々な職業人に聞く」の講師や文化部の発表など)と同時に金銭的な面での支援をしていきたいと思ひます。三十周年事業の歳入予算は一六、三六〇、〇〇〇円ですが、そのうち同窓会からの寄付は八百万円の予定です。この八百万円が集まらないと、創立三十周年行事に大きな支障をきたしてしまいます。

冒頭で同窓会長も述べていますとおり、十周年、二十周年は東高会を中心に活動してきましたが、三十周年からは同窓会が中心となって学校・P.T.Aと協力し成功させなければなりません。大きな責任が我々同窓生にはあるのです。

ところで、なぜ募金が八〇〇万円もの金額なのかといえますと、まず、二十周年の時には同窓生は一口二、〇〇〇円で約一、〇〇〇人の方から募金していただきました。あれから十年がたち同窓生はさらに三、〇〇〇人以上は増えていきますので、もっと多くの方に協力いただけるのではないかと考えています。更に一口の金額を二、〇〇〇円から五、〇〇〇円に増やせば、目標金額は達成できるのではないかと考えました。

そこで、昨年度までは在校生支援金として一口一、〇〇〇円の募金を依頼していましたが、今年から数年間は創立三十周年記念行事への募金もあわせておこなうために、一口五、〇〇〇円でお願ひしたいと思います。また、一〜五期の方々は四十歳を超え、様々な場で既に中核となって活躍なさっていらっしゃる

な職業人に聞く」の講師や文化部の発表など)と同時に金銭的な面での支援をしていきたいと思ひます。三十周年事業の歳入予算は一六、三六〇、〇〇〇円ですが、そのうち同窓会からの寄付は八百万円の予定です。この八百万円が集まらないと、創立三十周年行事に大きな支障をきたしてしまいます。

冒頭で同窓会長も述べていますとおり、十周年、二十周年は東高会を中心に活動してきましたが、三十周年からは同窓会が中心となって学校・P.T.Aと協力し成功させなければなりません。大きな責任が我々同窓生にはあるのです。

ところで、なぜ募金が八〇〇万円もの金額なのかといえますと、まず、二十周年の時には同窓生は一口二、〇〇〇円で約一、〇〇〇人の方から募金していただきました。あれから十年がたち同窓生はさらに三、〇〇〇人以上は増えていきますので、もっと多くの方に協力いただけるのではないかと考えています。更に一口の金額を二、〇〇〇円から五、〇〇〇円に増やせば、目標金額は達成できるのではないかと考えました。

そこで、昨年度までは在校生支援金として一口一、〇〇〇円の募金を依頼していましたが、今年から数年間は創立三十周年記念行事への募金もあわせておこなうために、一口五、〇〇〇円でお願ひしたいと思います。また、一〜五期の方々は四十歳を超え、様々な場で既に中核となって活躍なさっていらっしゃる

る方々です。一口一〇、〇〇〇円でお願ひしたいと思います。

同封の振込用紙に金額をご記入していただき、ゆうちょ銀行(郵便局)へ振り込みをお願いいたします。

ゆうちょ銀行(郵便局)
02270-1-103027
福島県立福島東高等学校同窓会

1〜5期 一口 10,000円
6〜26期 一口 5,000円

創立三十周年記念
福島東高校同窓会
球技大会のお知らせ

創立三十周年を迎えるにあたり、同窓会としても様々な企画を検討しています。まずは同窓生による球技大会を企画します。友達を誘って奮ってご参加ください。かつてクラスで団結して燃え上がった球技大会をもう一度思い出してください。詳細は時期が近づいてからお知らせいたします。次年度の同窓会報(八月)でお伝えする予定です。

日時 平成二十一年十月三日(土)〜四日(日)

場所 福島東高校
グラウンド・体育館
ソフトボール・バレー
ボール・バスケットボール・サッカーなど

「東高応援基金」 協賛者名

()は卒業期

○「東高応援基金について」

文武両道に全力で取り組む後輩達に金銭的な支援を行うことを目的に平成十七年度から始まったこの事業に多くの同窓生にご賛同いただきありがとうございます。今後の在校生支援を継続して行く財源の確保のため、この「東高応援基金」へさらに多くの同窓生の方に「協力をお願いいたします」ようお願いいたします(今年度から一口五、〇〇〇円になります)。同封した振込み用紙にてお願いします。その際、おわかりになっていれば、卒業年度もしくは何期かをご記入下さい。

なお、ここ数年にわたって福島市役所の職場同窓会である福島市役所東校会から、部活動支援のためにという趣旨で多額のご寄付があります。これは部活動支援のための後援会会計に繰り入れ活用させていただいております。このような職場同窓会の活動に心より感謝申し上げます。

落合範文(1)小野滋之(1)木村浩一(1)西山尚利(1)尾形幸男(1)橋内重康(1)仙浪泰明(1)田中昇(1)佐藤恒夫(1)佐藤道郎(1)三浦友弘(1)大平睦生(1)菊池浩一(1)門間道貴(1)岡

- 田正孝(1)酒井祥秀(1)佐藤卓哉(1)田村健(1)齋藤正機(2)津田克也(2)秋葉直樹(2)杉内剛(2)相馬伸介(2)目黒幹浩(2)酒井隆司(2)齋藤靖(2)真柴毅(2)阿部浩行(2)小野浩樹(2)菅野浩典(2)津田昌泰(2)岡崎一博(2)尾形典良(3)金子與志人(3)鈴木友彦(3)蒲倉達也(3)佐藤和生(3)遠藤博(3)岡田正明(3)安藤武仁(3)佐久間明浩(3)高槻丈夫(3)寺島健吾(3)西條正美(3)大河原友道(3)菅野功(3)堀江孝晴(3)泉田太郎(3)齋藤文孝(3)坂巻幸司(3)下島仁(3)野口知広(3)吉川裕(4)松本重明(4)佐藤真一(4)鈴木英則(4)長嶺俊英(4)古閑邦彦(4)高橋勝弘(4)宗像和人(4)五十嵐広毅(5)大槻達也(5)小林昌浩(5)永澤憲一(5)渡辺伸克(5)小野友史(5)小竹智行(5)高橋将人(5)菅野浩行(5)手塚健一(5)星秀明(5)佐々木清一(5)瀬尾光裕(5)丹治聡一郎(5)安斎儀幸(5)大斎克彦(5)穴戸大作(5)渡辺裕哉(5)大槻昌史(5)菅野晃弘(5)山岸淳一(5)亀井信宏(6)高田豊一(6)樋口達哉(6)藤原聡(6)山川毅(6)相澤慎一(6)佐々木光洋(6)坂下英一(6)山岸竜大(7)安彦透(7)佐藤英晴(7)渡部泰史(7)磯部哲也(7)角田純也(7)田村健一郎(7)橋本淳也(7)間邊理(7)川名努(7)森康洋(7)今野賢治(7)山田光一(7)安齋晃(8)河原慎治(8)浅野寛之(8)佐藤吉裕(8)二文字屋哲(8)小林孝雄(8)重富敦(8)茂木薫(8)鎌田純一(8)酒井克之(8)佐藤純一(8)東城幸治(8)菅野巧(9)菅野仁(9)伊藤宏之(9)小熊剛(9)佐藤宏道(9)佐藤浩規(9)阿部晃広(9)立花純孝(9)佐久間拓也(9)

- 出羽仁(9)鈴木勇人(9)深瀬雅幸(9)金子尚矢(10)穴戸哲也(10)和田範道(10)内山雄史(10)大内崇史(10)赤間敬通(10)氏家賢(10)佐藤宗孝(10)加藤芳史(10)市川清人(10)上野泰博(10)加藤剛(10)三浦和幸(10)五十嵐潤(10)林容市(10)佐藤智頭(11)石田哲(11)齋藤博(11)浅野昇建(11)板垣文浩(11)中村俊之(11)持地武博(11)宮崎康弘(11)國分邦和(12)穂苅康介(12)浅野英建(12)菊地輝臣(12)穴戸朋隆(12)菅野聡(12)鎌田俊介(12)高橋伸弘(12)柳沼俊彦(12)阿部貴洋(12)菅野均(12)川勝庸史(13)眞田龍一(13)安田裕(13)渡邊勝己(13)小野隆史(13)今野敬樹(13)佐々木太(13)佐藤誠(13)高橋義泰(13)齋藤博靖(14)佐藤幸樹(14)阿部貴仁(14)松野哲郎(14)齋藤史隆(14)三浦洋平(14)板垣淳二(14)菅野俊樹(14)高橋将典(14)菅野健(14)横田裕史(14)宮本教広(14)佐藤光太郎(15)菅野元樹(15)高斉健太郎(15)高橋智典(15)月山寛輝(15)齋藤訓朗(15)高橋誠(15)伊藤英明(15)小林武史(15)二文字屋剛(15)太田幸二(16)阿部信一(17)菅野仁美(17)加藤友幸(17)嶋原智宏(17)阿部浩典(17)菅野晃代(17)古川陽一(17)岩本亜樹(17)尾形真希(17)土屋映梨(17)稲村健吾(17)神田恵一(17)松野大悟(17)上杉光成(17)柴田学(17)渡邊高志(18)尾形浩(18)谷内雅一(18)根本元徳(18)赤間力(18)笠原弘毅(18)湯野川賢一郎(18)加藤和弘(18)川崎布美子(18)塩野敏(18)下山雄大(19)武田文子(19)矢目正樹(19)石川重光(19)金子満久(19)富田宏幸(19)山口卓也(19)渡邊祝子(19)古宮章子(19)逢田史徳(19)齋藤幸平(19)大橋喜隆(19)菅井明美(20)村上貴洋(20)春日

- 由紀(20)櫻田貴志(20)柳原扶美(20)佐藤卓也(20)齋藤勝敏(20)鈴木理恵(20)石川圭(20)二瓶真人(20)尾形厚(20)笠原敬男(20)野崎友大(20)野澤亮一郎(20)羽田真幸(20)阿部真治(20)遠藤健一(20)遠藤亮介(20)岡野朋子(20)佐藤裕一(20)齋藤奈津子(21)齋藤広彰(21)竹山美穂(21)猪股貴志(21)齋藤拓野(21)半沢宏一郎(21)佐藤和美(21)鈴木恭平(21)関根史博(21)鍋島雅史(21)野津智華子(21)伊達孝浩(21)古川泰弘(21)横山愛(21)松本真実(21)山本拓也(21)大橋克哉(21)佐藤弘明(21)三浦慎也(21)川口龍(21)佐久間真希(22)富田里美(22)幕田親平(22)渡辺将人(22)佐藤宏樹(22)竹内大宗(22)長澤裕幸(22)矢吹友紀(22)伊藤由宇也(22)大輪佳代(22)坪井貴大(22)幕田光枝(22)吉田洋平(22)渡邊恒太(22)阿部健治(22)柳原圭(22)塩谷卓也(22)遠藤哲哉(22)桑原裕美(22)藤塚淳(22)吉内進(22)今泉典子(22)佐藤智英(22)千葉悠太郎(22)尾形憲司(22)齋藤恵一(22)渡邊亮(22)安斎加奈子(22)遠藤孝浩(22)笠間範子(22)羽田潤(22)柳内宏太(22)甚野清英(22)矢館美典(22)古積かおる(22)本間有華(22)米田秀(22)飯沼俊介(22)菅野大地(22)菅野裕樹(22)齋藤慧(22)佐藤浩規(22)新開拓也(22)猪狩裕未(22)小野哲(22)鈴木洋介(22)高橋政哉(22)高橋佑太(22)伊達孝典(22)熊田裕喜(22)本多奨(22)阿部尚徳(22)紺野靖(22)坂田亮人(22)佐藤理加(22)高木健次(22)三浦紗央(22)猪股由起(22)菅野数宙(22)菅野奈保子(22)齋藤由里菜(22)鈴木翔太(22)高野未咲(22)長岐大(22)長澤理恵(22)松本香澄(22)横山舞(22)佐藤麻衣(22)坪井大介(22)橋本香澄

24伊藤彩 24大橋祐太 24佐久間彩未 24山内雄太 24山田愛 24遠藤寛人 24大内智之 24加藤丈実 24國嶋良平 24佐藤香里 24松田ゆきえ 24渡邊公偉 24五十嵐茂幸 24尾形正幸 24佐藤智貴 24丹治佑樹 24渡邊泰文 24梅津洸亮 24國分優佳 24紺野雄太 24佐藤雄太 24島貫里美 24鈴木大毅 24野内菜美子 24阿部兼太郎 24遠藤裕太 24奥山勤武 24佐藤麻人 24長澤陽介 24藤森良仁 24石川あずさ 24川口夢加 24齋藤薫 24齋藤智也 24松本なつみ 24井上定之 24加藤千裕 24陳野原有衣 24鈴木惠慈 24谷口彩夏 24矢吹龍介 24阿部隆徳 24伊藤萌 24佐藤竜也 24鈴木春世 24高橋由紀 24永山竜也 24渡辺貴儀 24高橋明広 24坪谷洋平 24西崎亮子 24宮本圭太 24宗田大路 24泉達也 24乙葉祐介 24金子仁美 24齋藤真木 24齋藤恭彦 24羽田晃子 24八巻優香 24吉田奈津美 24渡邊拓 24作間絵梨子 24船山浩明 24八木佳範 24市川卓也 24齋藤みな美 24菅野陽子 24清野美咲 24山口大輔 24尾形葵 24齋藤大地 24寶槻拓 24山形俊介 24

平成十九年四月一日から平成二十年三月三十日までに取り込みがあった方を掲載しました。保護者名で振り込まれた場合は生徒名で報告させていただきます。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。氏名等の誤りがありましたら、事務局までご一報下さい。

年度別 現役合格者 延べ人数

卒業年度	1期 S57年	2期 S58年	3期 S59年	4期 S60年	5期 S61年	6期 S62年	7期 S63年	8期 H1年	9期 H2年
学級数	6	6	6	6	8	8	8	8	9
卒業者数	(281)	(265)	(262)	(283)	(365)	(361)	(372)	(376)	(427)
国公立大	72	57	78	62	93	70	103	78	65
私立大	160	117	144	129	199	180	225	259	188

卒業年度	10期 H3年	11期 H4年	12期 H5年	13期 H6年	14期 H7年	15期 H8年	16期 H9年	17期 H10年	18期 H11年
学級数	9	9	9	9	9	8	8	9	9
卒業者数	(423)	(431)	(421)	(408)	(403)	(357)	(354)	(351)	(354)
国公立大	88	109	96	109	85	109	113	114	145
私立大	278	291	333	299	418	413	327	313	311

卒業年度	19期 H12年	20期 H13年	21期 H14年	22期 H15年	23期 H16年	24期 H17年	25期 H18年	26期 H19年
学級数	9	9	9	9	8	8	8	8
卒業者数	(362)	(350)	(358)	(359)	(314)	(316)	(318)	(313)
国公立大	150	115	165	153	154	171	126	139
私立大	346	349	247	248	305	322	329	351

(表1)

■大学別合格者数 (平成19・18・17年度入試)

	大学名	平成19年度生	平成18年度生	平成17年度生
国公立大	弘前大	1	0	4
	岩手大	1	1	6
	東北大	2	7	9
	宮城教育大	3	2	3
	秋田大	2	2	1
	山形大	14	13	17
	福島大	44	31	36
	茨城大	10	7	4
	筑波大	0	2	2
	宇都宮大	5	10	16
	群馬大	0	0	1
	埼玉大	9	10	8
	千葉大	1	2	4
	東京外語大	0	0	2
	東京学芸大	1	1	2
	東京農工大	0	0	1
	東京海洋大	0	1	0
	東京通信大	0	0	3
	横浜国立大	1	1	0
	新潟大	3	6	5
上越教育大	0	0	1	
富山大	1	0	1	
静岡大	2	1	3	
岩手県立大	3	1	3	
宮城大	4	3	3	
秋田県立大	2	2	4	
国際教養大	1	0	2	
会津大	1	5	2	
県立医大(看護)	6	4	7	
高崎経済大	1	8	7	
埼玉県立大	2	0	2	
首都大学東京	7	0	1	
横浜市立大	1	1	3	
都留文科大	1	1	3	
その他	10	4	5	
計		139	126	171

	大学名	平成19年度生	平成18年度生	平成17年度生
私立大	東北学院大	58	44	37
	東北福祉大	7	16	12
	東北薬科大	9	4	5
	獨協大	2	4	3
	文教大	8	2	6
	青山学院大	3	2	2
	学習院大	2	1	1
	慶応義塾大	0	1	0
	國學院大	2	1	1
	国土館大	2	11	5
	駒澤大	7	8	4
	芝浦工大	7	8	6
	成蹊大	3	3	0
	成城大	1	1	1
	専修大	14	5	2
	大東文化大	4	10	11
	拓殖大	1	1	2
	中央大	8	4	7
	東海大	3	3	7
	東京女子大	1	0	1
	東京電機大	3	2	1
	東京農業大	5	10	5
	東京理科大	1	3	7
	東洋大	12	12	6
	日本大	25	20	14
	法政大	5	10	13
	武蔵大	2	3	1
	武蔵工大	3	3	0
	明治大	5	8	10
	明治学院大	2	0	0
	立教大	2	1	2
	早稲田大	0	0	2
神奈川大	12	14	22	
立命館大	0	1	1	
その他	132	116	115	
計		351	329	322

進路



進路指導主事
梅宮 康弘

例年通り表1に国公立・私立大学の現役合格者数を載せました。昨年度の卒業生二十六期生は、部活動での活躍のため、本格的な受験勉強のスタートが遅くなった者が少なからずいる中、東高伝統の学年としてのチームワークを発揮し、ほぼ例年並の国公立の合格を勝ち取り、私立大学においても多数の合格が出

ました。表2の下にも記されていますが、確実に大学等に入學し、浪人が少なかったのが大きな特徴と言えます。表2では大学別合格者を載せました。東北大は例年に比べ少なかつたものの、首都大学東京において例年より多い七名が受験し、その全員が合格した事が、大きな話題となりました。地元指向が強い学年でもあり、福島大は過去四番目の合格者数でした。先輩の築いてきた「文武両道」を今の学生も実践すべく、日々努力しています。そのような生徒を学校をあげてサポートしていくことと思っています。

■現役大学等進学率…平成19年度生(87.9%) 平成18年度生(81.1%) 平成17年度生(86.7%)

(表2)

26期生の卒業



26期担任代表
遠藤 剛

平成二十年三月一日

二十六期生の新しい門出に際し、生徒のみならず学年担任団に対しても陰に陽にご指導ご支援いただき、誠にありがとうございました。三百十三名、無事、深澤陽一校長より卒業証書を授与されました。「ほっと一息」というのが正直なところですが、しかし、毎年このことはいえ具体的に進路先が決まっていけない生徒が多く、卒業式の日にもかかわらず、放課後教室で前期試験の合格発表を待ちつつも中期試験後期試験のために勉強している生徒の姿を見ると、私自身「まだまだ「これから」とファイトが湧いてきます。今しばらくお力をお貸し下さい。お願いいたします。

平成二十年三月二十三日

すべての合格発表が終わわり、二十六期生との生活も間もなく最終日を迎えようとしています。就職にせよ進学にせよ、受験は自分の可能性を高めるための通過点です。今年経験した苦労は、必ず皆さんの今後の生活に役立つことでしょう。文武両道を共に実践し実現しようと頑張ってきたみなさんに、「幸多かれ」と祈るばかりです。

平成二十年三月末日

【いろいろな思い出】

三年前の三月、私は二十三期の担任として今年と同じような日々を過ごしていた。一方で、二十六期プロジェクトチームが連日話し合いを持ち、楽しそうに二十六期生を迎える準備を進めていた。東OBの先生もいらしたが、皆東高で始めて担任する方ばかりで、三月下旬に行われたベネッセ主催の「新入生の早期指導」研修会に私以外の担任全員が参加を希望するなど（結局八人全員で参加）、「生徒のために」を第一に考える意欲あふれる先生方であったことは、最後まで変わることはなかった。話は三年前にもどる。新入生とその保護者全員と初めて会うオリエンテーションの日が近づくと、私の不安も徐々に強くなっていった。なぜなら、私自身二十六期生を迎える心の準備が遅れていたからである。さて、平成生まれの最初の高校生たちを...と考えていると、二十六期生と私の息子は同じ年であれば「家族のような学年」と一人心に誓った。

四月、新学年スタート。

校歌応援歌練習開始。緊張が高まる。しかし四日後、応援団員の「この四日を耐え抜いたお前なら、どんな辛い事があっても乗り越えられる。」という言葉に感動していた。二年後、この生徒は応援歌練習の場に立って指導していた。二年ぶりに東高

校のグラウンドでの桜梅戦。応援も盛り上がり、応援団の人氣も急上昇。ある応援団員が二年生のときのLHRの時間に校庭の桜を見ながら「応援団 桜とともに 散る人氣」と詠んだ。しかし、この年の公開文化祭での応援団の演舞には、多くの生徒が（私も）感動し拍手を送った。オリエンテーション合宿。予習 授業 復習の基本サイクルを体験し、これからの日々の学習活動の土台作りが目的であった。また、講演では一年一学期の過ごし方の大切さを学んだ。このことは、その後の授業担当者からも同じ指導をいただき、一定の効果があったと思われる。しかし、生徒たちは当たり前のことを当たり前に実行することの難しさを、この日以降実感することになる。だから、文武両道は高校生の永遠のテーマなのだ。二十六期生は、最後まで粘り強く頑張ったと褒めたい。この合宿以降、通常の学校生活が始まり、生徒もよく応援してくれたと思う。

東高での先輩の先生が、卒業生を送り出した後に「東高では出来るようになるまで、根気強い個別指導が合っているかも知れない。たとえば、学習のため

に土曜日や定期考査前の休日、さらに長期休業中の学校開放などもそのひとつかも」こんなことをおっしゃっていた。二十三期生の何人かが、センター試験を目前にした年末年始、学校を開放して欲しいと申し出てきたことがあった。現実には暦通りに行われたが、どうしても私の頭からこのことが離れなかった。もちろん、賛否が分かれるところだが、「出来ることはやる」というのが、二十六期担任団の根底に共有していたと思う。

「総合的な学習の時間」の積極的活用として先輩学年が推し進めていた「ダイアログプロジェクト」と名付けられた取り組みが、同窓生の協力を得ながら学校全体の取り組みに発展しつつあった。「学問入門講座」「さまざまな職業人に聞く」が代表的なものだが、その中のひとつ「沖縄学」は、修学旅行に対して十分な動機付けができ、平和学習や環境問題に対しての興味関心が高まったと思う。男女と自負する先生がいたにもかかわらず、天候に恵まれとても思い出に残る旅行だった。生徒の感想文の一節「ただ楽しいのでなく、そこで何か呼吸することが出来て初めて有意義な修学旅行だと言えらると思います。そう思える四日間でした。」

忘れられないこと二つ
「単位未履修問題」である。本当に申し訳ありません。修学旅行も終わり、「さあー受験勉強

強をスタートしよう。」という雰囲気を作り出そうとしていた矢先のことでした。まず三年生の補充を優先に進め、二年生は授業の一部変更で情報や理科を実施し、冬・春の通常の年には課外を実施していた時期に福島南高の情報室をお借りし、情報の補充を行いました。南高の先生方や学年外の多くの先生方に支えられどうにか年度内の補充計画が終了したかに思えましたが、積み残しが多少あり、情報は次年度早々に完了しました。返す返すも、誠に申し訳ありませんでした。

平成十九年六月四日
国体記念体育館にて
学年挙げての応援、本当にありがとうございました。ハンドボール関係者の一人としてあらためて御礼を申し上げたいと思います。十九年間ハンドボールに係ってきて、今回の決勝戦ほど熱気あふれる心温まる応援をしていただいたチームを見たことがありません。「応援あつての優勝」だと選手ともども感謝しております。ありがとうございました。

最後になりましたが、さまざまところで二十六期を支えて下さり、本当にありがとうございました。生徒たちは、卒業してもご指導を受けるようなことも多々あるうかと思いますが、そのときは今までと変わらぬご支援よろしくお願いいたします。

男子バスケットボール部 インターハイ出場!!

「意志と希望」

平成二十年度福島県高校体育大会バスケットボール競技優勝（二年ぶり五度目優勝）彩夏到来08埼玉総体出場・全国大会勝利。（愛媛県代表県立松山南高校に勝利）二回戦福井県代表北陸高校に惜敗。今回、今年度の出来事を振り返ってみたいと思います。

今年の学年は一年生の時全国大会を経験していました。しかし、エントリーされている選手は誰一人いませんでした。ですが、先輩たちの姿を見て「僕たちも」と強い意志と希望を持って取り組んできました。前年度はインターハイ福島県予選二回戦で、郡山高校に敗れ、六月早々から新チームに変わっていました。新チームで望んだ福島県総合体育大会ではベスト8に進出し、三年生を率いて出場しているチームが多い中では、健闘した結果

でありました。その後順当に進むかと思われましたが、選抜（ウィンターカップ）県北予選で敗れ、県大会不出場。新人戦県大会ではまさかの一回戦負けとなりました。

苦しい冬の始まりでありました。敗戦の結果を分析し全体ミーティングを開きました。結果を求めすぎて足元がふらつきすぎたのではないだろうか、部員たちのコミュニケーションはとれていたのだろうか、様々な意見交換がなされました。「勝つための準備をしっかりとする。そして結果はその後についてくる。仲良し集団を求めるのではなく、あくまでも目標は全国大会。そして、先輩たちを越える（全国一勝）。」

それからは互いに切磋琢磨しながら成長していきました。入学時より取り組んでいるウエイトにも必要性を十分に感じ取り、毎日部位を変え取り組む選手た

ちが日々増えてきました。また、春休みに行った長期の練習試合でも、弱音をはくことなく対戦相手に向かっていく姿も見られました。

迎えること五月の最終練習試合、岩手県立黒沢尻工業高校と引き分けに終わりましたが、十分に戦える手応えを掴み、六月のインターハイ予選へと出発しました。

と、今年度を振り返ってみましたが優勝は決して順風満帆に進んだわけではありません。多くの失敗とそれを反省し、活かすための努力を続けた部員たちの賜であります。そして、全国大会では初戦愛媛県の松山南高校を71-52で退け、続く二回戦では福井県の北陸高校と対戦。2m級の中国人留学生を二人有し、全国からも選手が集まる強豪高校であります。前半に43-26と離されたものの、後半も最後まで諦めず粘り、47-42と大

健闘。だが90-72で敗れ戦いも終了しました。しかし、応援に駆けつけてくれた保護者並びに同窓生や関係者には大きな感動と勇気をもたらしてくれました。今年度の三年生は二度も全国

大会を経験しました。一年生の時に見たあの大舞台で自分たちもできるかも、と抱いた大きな希望と強い意志を実現させ、さらに新しい伝統を築いてくれました。素晴らしい部員たちと出会ったことに感謝いたします。最後になりましたが、いつも支えてくださっている保護者、バスケットボール部OB、同窓生の皆様、大勢の関係者に感謝いたします。福島東高校バスケットボール部が益々活躍できるよう日頃より努力して参ります。今後もし宜しくお願いたします。

福島東2年ぶりV

男子バスケット

息詰まる攻防、中盤逆転
 試合後半、相手の防衛が厳しく、両チームとも得点のペースが落ちた。試合後半は、両チームとも得点のペースが落ちた。試合後半は、両チームとも得点のペースが落ちた。

冷静な試合運び
 試合後半、相手の防衛が厳しく、両チームとも得点のペースが落ちた。試合後半は、両チームとも得点のペースが落ちた。



【バスケット男子決勝】インターハイ出場目指し激しく戦った選手たち。須賀川アリーナ

福島民友 平成20年6月11日付

平成19年度 部活動報告

運動部

陸上競技部

県高等学校体育大会
 県北地区予選会
 男子 総合第2位
 100m 第1位 山田修平
 200m 第2位 丹治啓太
 300m SC 第3位 齋藤宏紀
 400m 第2位 山田修平
 200m 第3位 丹治啓太
 400m 第2位 丹治啓太
 3000m SC 第3位 蓬田両健
 4x100mR 第1位 佐久間太成
 4x400mR 第1位 濱田光貴
 1年3000m 第3位 濱田光貴
 1年4x100mR 第1位
 トラック総合第1位
 走幅跳 第1位 齋藤宏紀
 砲丸投 第3位 寺島 岳
 フィールド総合第5位
 女子 総合第3位
 400m 第3位 鈴木亜季子
 800m 第2位 奥山朋世
 400mH 第3位 奥山朋世
 4x100mR 第2位 奥山朋世
 4x400mR 第2位
 トラック総合第2位
 走高跳 第1位 北村あゆみ
 走幅跳 第2位 古山友希
 フィールド総合第3位
 県高等学校体育大会
 男子
 100m 第3位 山田修平
 400m 第8位 蓬田両健
 4x100mR 第1位
 杉山・齋藤・猪狩・山田
 走幅跳 第8位 齋藤宏紀
 女子
 4x100mR 第7位
 走高跳 第2位 北村あゆみ

走幅跳 第7位 古山友希
 フィールド総合第5位
 東北高等学校陸上競技大会
 男子
 100m 準決勝 山田修平
 4x100mR 第5位
 猪狩・齋藤・丹治・山田
 女子
 走高跳 第6位 北村あゆみ
 全国高等学校陸上競技対校選手権大会
 男子
 4x100mR 予選
 猪狩・齋藤・丹治・山田
 女子
 走高跳 予選 北村あゆみ
 県総合体育大会
 県北地区予選会
 男子
 100m 第1位 丹治啓太
 200m 第2位 山田修平
 400m 第1位 丹治啓太
 1500m 第3位 山田修平
 3000m SC 第2位 佐久間太成
 4x400mR 第1位
 走幅跳 第1位 齋藤宏紀
 B 3000m 第3位 濱田光貴
 女子
 400mH 第1位 奥山朋世
 走幅跳 第1位 古山友希
 県総合体育大会
 県選手権
 男子
 4x100mR 第5位
 杉山・齋藤・丹治・山田
 4x400mR 第5位
 山田・蓬田・杉山・丹治

女子
 400mH 第7位 奥山朋世
 走高跳 第1位 北村あゆみ
 走幅跳 第7位 古山友希
 東北総合体育大会
 女子
 走高跳 北村あゆみ
 県高等学校陸上競技大会
 県北地区予選会
 男子 総合第2位
 100m 第1位 山田修平
 200m 第2位 丹治啓太
 3000m SC 第1位 佐久間太成
 4x100mR 第1位
 4x400mR 第1位
 トラック総合第1位
 三段跳 第1位 佐藤大介
 八種競技 第1位 遠藤寿晴
 女子 総合第7位
 七種競技 第1位 橋本みなみ
 県高等学校陸上競技大会
 男子
 100m 第3位 山田修平
 200m 第4位 丹治啓太
 4x100mR 第3位
 杉山・野地・丹治・山田
 4x400mR 第2位
 山田・蓬田・丹治・遠藤
 トラック総合第5位
 女子
 七種競技 第3位 橋本みなみ
 東北高等学校陸上競技大会
 男子
 100m 第5位 山田修平
 200m 第8位 丹治啓太
 4x100mR 予選
 杉山・野地・丹治・山田
 4x400mR 第7位
 山田・蓬田・丹治・遠藤
 女子
 七種競技 第13位 橋本みなみ

しらかわ駅伝競走大会
 1区 佐久間太成
 2区 鈴木淳文
 3区 濱田光貴
 4区 橋内雄司
 5区 佐藤佳介
 6区 安斎文也
 7区 高橋 亮
 総合第52位
 県高等学校駅伝競走大会
 1区 佐久間太成 第17位
 2区 鈴木淳文 第12位
 3区 濱田光貴 第9位
 4区 安斎文也 第15位
 5区 佐藤佳介 第15位
 6区 橋内雄司 第13位
 7区 高橋 亮 第12位
 総合第12位
 テニス部
 男子
 インターハイ県北大大会
 学校対抗優勝
 個人戦シングルス
 優勝 植木紀元
 第3位 大木翔太・梅宮孝介
 個人戦ダブルス
 優勝 大木翔太・梅宮孝介
 準優勝 植木紀元・古山貴大
 第3位 田口太郎・香野拓也
 インターハイ県大会
 学校対抗優勝
 個人戦シングルス
 第5位 梅宮孝介
 個人戦ダブルス
 ベスト8 大木翔太・梅宮孝介
 東北大会
 学校対抗 2 1 寒河江(山形)
 1回戦 2 1 秋田商
 2回戦 0 2 秋田商
 インターハイ全国大会

学校対抗
 1回戦 0 3 太田(群馬)
 県総合体育大会県北大大会
 男子 部シングルス
 優勝 梅宮孝介
 第3位 香野拓也
 同ダブルス
 優勝 梅宮孝介・香野拓也
 男子 部シングルス
 優勝 菅野拓也
 同ダブルス
 準優勝 佐藤智裕・冨塚 慶
 県総合体育大会
 男子 部シングルス
 第3位 大木翔太
 ベスト8 梅宮孝介
 同ダブルス
 ベスト8 梅宮孝介・香野拓也
 男子 部シングルス
 第3位 菅野拓也
 新人戦県北大大会
 男子 学校対抗 優勝
 個人戦シングルス
 優勝 梅宮孝介
 第3位 香野拓也・佐藤哲也
 個人戦ダブルス
 優勝 梅宮孝介
 新人戦県大会
 男子 学校対抗 第3位
 県春季ジュニアダブルステニス選手権大会
 男子 18歳以下
 ベスト8 田口太郎・香野拓也
 男子 16歳以下
 ベスト8 梅宮孝介・菅野拓也
 県春季ジュニアシングルス
 テニス選手権大会
 男子 18歳以下

第5位 大木翔太
 男子16歳以下
 第5位 梅宮孝介
 東北ジュニアテニス選手権大会
 男子18歳以下シングルス
 大木翔太 予選決勝敗退
 男子16歳以下シングルス
 梅宮孝介 本選1回戦敗退
 東北ジュニアシングルス
 選手権大会
 優勝 菅野拓也
 準優勝 梅宮孝介
 東北秋季ジュニアテニス
 選手権大会
 シングルス
 優勝 梅宮孝介
 準優勝 菅野拓也
 第3位 淡路雄翔
 ダブルス
 優勝 梅宮孝介・菅野拓也
 県ジュニアダブルステニス
 選手権大会
 第5位 梅宮孝介・菅野拓也
 県春季選抜ジュニア
 シングルステニス選手権大会
 第8位
 梅宮孝介(東北大会出場)
 女子
 ジュニアテニス選手権
 ダブルス地区大会 18歳以下
 第5位
 佐藤絢乃・鈴木美怜組
 第7位
 阿部真由美・嶋原美穂組
 シングルス地区大会
 第5位 佐藤絢乃
 高校体育大会
 地区大会 団体戦 第2位
 シングルス
 第4位 佐藤絢乃
 ダブルス
 第4位 佐藤絢乃
 第7位 佐藤絢乃・諸橋希映組

阿部真由美・嶋原美穂組
 県大会 団体戦 ベスト8
 シングルス
 第6位 佐藤絢乃
 ベスト16 鈴木美怜
 ダブルス
 ベスト8
 佐藤絢乃・諸橋希映組
 ベスト16
 阿部真由美・嶋原美穂組
 石川美幸・伊藤亜美組
 県総合体育大会少年の部地区
 大会
 部ダブルス
 第6位
 嶋原美穂・浅和 唯組
 部シングルス
 第1位 諸橋希映
 第3位 田崎真以
 県総合体育大会少年の部県大会
 部シングルス
 第2位 諸橋希映
 部ダブルス
 ベスト16
 浅和 唯・嶋原美穂組
 東北ジュニアシングルス
 女子シングルス
 第5位 諸橋希映
 第8位 伊藤亜美
 高校新人体育大会地区大会
 団体戦 第3位
 シングルス
 第6位 諸橋希映
 高校新人体育大会県大会
 団体戦 ベスト8
 シングルス
 ベスト16 諸橋希映
 ジュニアテニス選手権地区大会
 ダブルス
 第3位
 嶋原美穂・浅和 唯組
 第5位
 伊藤亜美・伊藤和佳奈組
 ジュニアテニス選手権県大会
 ダブルス

ベスト16
 嶋原美穂・浅和 唯組
 ハンドボール部
 インターハイ県北大会
 対福島工 35
 対福島工 17
 対福島商 38
 対福島商 24
 インターハイ県大会
 対郡山東 28
 対福島工 29
 対平工 32
 対学法石川 32
 東北大会
 対横手(秋田) 33
 対盛岡第一(岩手) 39
 対湯沢(秋田) 26
 インターハイ全国大会
 対小林工(宮崎) 40
 県総合体育大会県北大会
 対川俣 23
 対福島 15
 県総合体育大会
 対学法石川 44
 *本校の3年生8名が県北
 選抜として出場し、優勝。
 1 渡辺大智 2 島貫悠紀
 3 羽田哲也 4 山口貴士
 5 関口 秀 6 阿部直人
 7 赤間 剛 8 吉原雄二
 ミニ国体
 *本校の3年生5名が福島県
 選抜選手として出場し、準
 優勝。国体出場権を獲得。
 1 渡辺大智 2 関口 秀
 3 阿部直人 4 赤間 剛
 5 吉原雄二
 国民体育大会
 *本校の3年生5名が福島県
 選抜選手として出場
 1 渡辺大智 2 関口 秀
 3 阿部直人 4 赤間 剛

5 吉原雄二
 新人戦県北大会
 対川俣 20
 順位決定戦
 対福島商 25
 対福島商 14
 対本宮 17
 新人戦県大会
 対清陵情報 31
 対尚志 17
 春季ハンドボール選手権大会
 対川俣 37
 対福島工 25
 対平工 38
 対学法石川 27
 福島市民体育祭
 福島西 17
 対本宮 20
 県北選手権大会
 対福島SG(一般) 5
 春季東北地区高校野球福島県
 大会県北支部予選
 2回戦 x福島2 1
 春季東北地区高校野球選手権
 大会
 2回戦 聖光学院 2
 3回戦 橘12 1
 準決勝 x福島商業 5
 全国高校野球選手権福島大会
 2回戦 x学法石川 6
 秋季東北地区高校野球福島県
 大会県北支部予選
 2回戦 保原1 5
 3回戦 安達0 10
 準決勝 福島商業 0
 決勝 福島1 8
 秋季東北地区高校野球福島県
 大会
 2回戦 清陵情報 0
 3回戦 x小高工業 1
 春季東北地区高校野球選手権
 大会

2回戦 二本松工 8
 3回戦 安達3 7
 準決勝 福島明成 1
 決勝 x福島4 3
 バドミントン部
 男子
 県北高校体育大会
 男子学校対抗戦
 2回戦 3 0 安達高校
 準決勝 1 3 福島工業
 第3位
 男子ダブルス
 第2位 伊藤・伊藤
 第5位 相澤・菅野
 男子シングルス
 第2位 伊藤真吾
 第9位 伊藤 瞭
 第9位 松尾祥平
 県高校体育大会
 男子学校対抗戦
 1回戦
 2回戦 磐城桜が丘
 3 0
 3 2 郡山商業
 準々決勝
 0 3 会津工業
 (ベスト8)
 男子ダブルス
 伊藤・伊藤 4回戦敗退
 (ベスト8)
 相澤・菅野 1回戦敗退
 男子シングルス
 伊藤真吾 3回戦敗退
 伊藤 瞭 2回戦敗退
 松尾祥平 2回戦敗退
 総体県北地区予選
 男子ダブルス
 第3位 藤田・菊地
 男子シングルス
 菊地龍人 2回戦敗退
 菅野貴仁 2回戦敗退
 県総合体育大会
 男子ダブルス
 藤田・菊地 2回戦敗退
 県北新人大会

男子学校对抗戦	1 回戦 3 1 本宮
	2 回戦 3 2 川俣
	準決勝 2 3 福島工
男子ダブルス	第3位
第3位	藤田・菊地
第5位	佐久間・菅野
第5位	鈴木・小関
男子シングルス	第5位 菊地龍人
	第9位 藤田晃輔
	第9位 菅野貴仁
県新人大会	1 回戦 3 1 相馬
男子学校对抗戦	2 回戦 2 3 福島高専
	(ベスト16)
男子ダブルス	藤田・菊地 2回戦敗退
	佐久間・菅野 2回戦敗退
	鈴木・小関 2回戦敗退
男子シングルス	菊地龍人 3回戦敗退
	藤田晃輔 2回戦敗退
	菅野貴仁 1回戦敗退
第57回県北パドミントン競技大会	男子2部 ダブルス
	優勝 伊藤・伊藤組
女子	東北高校体育大会
	女子学校对抗戦
	1 回戦 3 本宮高校
	敗者復活戦 2回戦
	3 0 福島西
	敗者復活戦 代表決定戦
	2 2 3 福島商業
女子ダブルス	佐藤・蓬田 3回戦敗退
	前田・鈴木 3回戦敗退
女子シングルス	菅野朱里 4回戦敗退
県総合体育大会県北地区予選	

女子ダブルス	前田・鈴木 4回戦敗退
	敗者復活戦で代表決定
	女子シングルス
	鈴木聡子 3回戦敗退
県総合体育大会	女子ダブルス
	前田・鈴木 2回戦敗退
県北新人大会	女子学校对抗戦
	1 回戦 3 2 本宮
	2 回戦 2 3 福島商業
敗者復活戦	1 3 福島北
女子ダブルス	前田・鈴木 4回戦敗退
女子シングルス	菅野朱里 第9位
県新人大会	女子シングルス
	菅野朱里 2回戦敗退
第58回県北パドミントン競技大会	女子2部 ダブルス
	第3位 菅野・伊藤組
	第14回瀬上オープンパドミントン大会
	女子3部 ダブルス
	第2位 菅野・伊藤組
ソフトボール部	県北高校体育大会
	福島 3 2 福東
	第2位
	県高校体育大会
	《予選リーグ》
	相馬 5 2 福島東
	福島 10 6 福島東
県総合体育大会県北地区予選	福島東 9 7 福島
県総合体育大会	第1位
	1 回戦
	小高工 6 3 福島東
県北新人大会	福島東 19 11 福島

第1位	県新人大会
	《予選リーグ》
	郡北工 15 0 福島東
	福島東 11 5 福島
	《準決勝》
	安積黎明 9 2 福島東
	第3位
サッカー部	インターハイ県北大大会
	1 回戦 1 0 福島明成
	2 回戦 6 0 福島
	準決勝 2 0 聖光学院
	決勝 3 1 安達
	インターハイ県大会
	2 回戦
	0 0 (PK 4 2) 郡山
	準々決勝 0 1 尚志
	三二国体
	福島県選抜 浅間聖也 出場
	新人戦県北大大会
	1 回戦 4 2 川俣
	2 回戦 5 0 保原
	準決勝
	2 1 (延長) 聖光学院
	決勝 0 2 福島工
	新人戦県大会
	2 回戦 5 1 会津
	準々決勝
	2 1 (延長) 湯本
	準決勝 0 2 福島工
	3 位決定戦 1 0 平工
	東北大会出場
	高校選手権福島県大会
	2 回戦 4 0 白河実
	3 回戦 5 0 石川
	4 回戦 0 1 富岡
	FRリーグ
	1 0 相馬
	2 1 福島南
	2 2 東日本昌平
	2 2 会津工
	2 2 郡山商
	2 3 尚志
	1 3 郡山

弓道部	2勝2敗3分 第5位
	インターハイ地区大会
	女子団体 第6位
	女子個人
	第4位
	松尾穂奈美 (3 4)
	県大会出場
	齋藤恵里奈 (2 6)
	清野成美 (3 8)
	インターハイ県大会
	男子個人
	準決勝進出
	笠原 聡 (2 6)
	女子個人
	準決勝進出
	佐藤成美 (3 2)
	佐藤尚美 (2 8)
	県総合体育大会地区大会
	女子個人
	第4位
	松尾穂奈美 (3 4)
	新人戦地区大会
	女子個人
	県大会出場
	静 有希 (2 1)
	新人戦県大会
	女子個人
	準決勝進出
	吉田智美 (2 5)
	佐藤尚美 (2 8)
	福島県選手の選手権大会
	女子個人
	第8位 油井 恵 (3 8)
	福島県選手の弓道大会
	女子団体 第4位 福島東B
	女子個人
	第7位 吉田智美 (2 5)
	第8位 佐藤綾美 (2 2)
	県北春季弓道大会
	女子個人
	第4位 六戸香理 (3 2)
	バスケットボール部
	男子
	県高校体育大会県北予選

予選	福島東 108 26 聖光学院
	福島東 73 41 福島商
	決勝リーグ
	福島東 33 85 福島
	福島東 46 70 福島西
	福島東 29 64 福島工
	第4位
	県高校体育大会
	1 回戦
	福島東 93 36 いわき総合
	2 回戦
	福島東 51 62 郡山
	県総合体育大会県北予選
	予選
	福島東 79 60 福島南
	福島東 108 19 福島明成
	決勝トーナメント
	福島東 67 53 安達
	福島東 62 46 福島西
	第3位
	県総合体育大会
	1 回戦
	福島東 74 54 郡山北工
	2 回戦
	福島東 54 50 若松商
	3 回戦
	福島東 45 71 日大東北
	ベスト8
	県高校選抜県北予選
	1 回戦
	福島東 103 24 川俣
	2 回戦
	福島東 45 56 福島商
	県男女総合選手権
	1 回戦
	福島東 61 55 OUTLAW
	2 回戦
	福島東 71 53 福島(マタイズ)
	3 回戦
	福島東 78 93 会津クラブ
	県高校新人体育大会県北予選
	予選
	福島東 105 58 二本松工
	福島東 96 20 安達東

決勝リーグ	福島東 75	66	福島
	福島東 45	49	福島商
	福島東 54	77	福島工
第4位	福島東 57	69	東日大昌平
1回戦	福島東 57	69	東日大昌平
県高校新人体育大会			
予選	福島東 101	22	川俣
	福島東 59	63	安達
県大会出場決定戦			
	福島東 72	29	福島北
第5位			
県高校体育大会			
1回戦	福島東 44	71	若松商
県総合体育大会県北予選			
予選	福島東 66	42	保原
	福島東 59	61	本宮
県大会出場決定戦			
	福島東 46	44	福島
第6位			
県総合体育大会			
1回戦	福島東 93	43	いわき総合
2回戦			
	福島東 61	78	郡山商
県高校選抜県北予選			
1回戦			
	福島東 68	38	福島明成
2回戦			
	福島東 54	69	福島商
県高校新人体育大会県北予選			
予選			
	福島東 52	65	福島商
	福島東 109	28	福島東稜
県大会出場決定戦			
	福島東 83	50	桜の聖母
福島東 69	50		
第5位			
県高校新人体育大会			

1回戦	福島東 52	48	光南
2回戦	福島東 71	66	相馬東
3回戦	福島東 52	90	福島成蹊
ベスト8			
ハレーボール部			
男子			
県北高校体育大会			
対福島工業	1	2	
対聖光学院	0	2	
対福島商業	2	0	
対福島西	2	0	
対学法福島	2	0	
第3位			
県高校体育大会			
対日大東北	2	0	
対平工業	0	2	
県総合体育大会県北地区予選			
対明成	2	0	
対福島商業	2	0	
対二本松工業	2	0	
対福島工業	0	2	
対福島西	2	1	
第2位			
県総合体育大会			
対葵	2	0	
対白河	0	2	
県北新人大会			
対福島商業	2	0	
対二本松工業	2	0	
対学法福島	2	0	
対福島工業	0	2	
対福島西	2	0	
対聖光学院	2	0	
第2位			
県新人大会			
対会津学鳳	2	0	
対平工業	1	2	
その他の大会			
県北地区1年生大会			優勝
県北秋季選手権大会			2位
女子			
インターハイ地区大会			

福東 2	0	福北
福東 2	0	東稜
福東 0	2	成蹊
福東 0	2	安達
福東 2	0	明成
福東 2	0	明成
福東 2	0	成蹊
福東 1	2	成蹊
福東 2	0	明成
第7位で県大会へ		
インターハイ県大会		
1回戦		
福東 2	0	清陵情報
2回戦		
福東 0	2	郡女大附属
県総合体育大会地区大会		
福東 2	0	福島
福東 2	0	福北
福東 0	2	福南
福東 0	2	保原
福東 0	2	成蹊
福東 0	2	聖母
福東 2	0	安達
第7位		
1年生大会		
福東 2	0	福商
福東 2	0	明成
福東 2	0	福西
福東 2	1	福北
福東 0	2	保原
福東 0	2	成蹊
第4位		
新人戦地区大会		
福東 2	0	福島
福東 2	0	福北
福東 0	2	福南
福東 1	2	福南
福東 1	2	成蹊
福東 2	0	明成
第7位で県大会へ		
新人戦県大会		
1回戦		
福東 2	0	安積
2回戦		
福東 0	2	喜多方東
卓球部		
男子		
高校大会県北予選		

1次リーグ B5位		
2次トーナメント		
代表決定戦敗退		
佐藤超萌		
第22位(県大会出場)		
高校大会県大会		
佐藤超萌 3回戦敗退		
県総合体育大会県北予選大会		
1次リーグ B4位		
2次トーナメント		
2回戦敗退		
佐藤超萌		
第15位(県大会出場)		
県総合体育大会県大会		
佐藤超萌 4回戦敗退		
全日本選手権県北大会		
菅野 凌		
第29位(県大会出場)		
全日本選手権県大会		
菅野 凌 1回戦敗退		
新人戦県北予選		
1次リーグ B3位		
2次トーナメント		
代表決定戦敗退		
女子		
高校大会県北予選		
1次リーグ B1位		
2次トーナメント		
代表決定戦敗退		
今野 翠・高橋美里組		
第10位(県大会出場)		
高校大会県大会		
今野・高橋組 1回戦敗退		
県総合体育大会県北予選大会		
1次リーグ A4位		
2次トーナメント		
第4位(県大会出場)		
高橋美里		
第25位(県大会出場)		
県総合体育大会県大会		
団体戦(対相馬高校)		
1回戦敗退		
高橋美里 2回戦敗退		
全日本選手権県北大会		
高橋美里 第17位		

丹野尚美		
第18位(県大会出場)		
全日本選手権県大会		
高橋美里 2回戦敗退		
丹野尚美 2回戦敗退		
新人戦県北予選大会		
1次リーグ B4位		
2次トーナメント 3位		
高橋美里・丹野尚美組		
第6位		
大竹麻衣子 第15位		
高橋美里 第18位		
丹野尚美 第21位		
新人戦県大会		
団体戦(对白河高校)		
2回戦敗退		
高橋・丹野組 1回戦敗退		
高橋美里		
3回戦敗退(ベスト32)		
丹野尚美 2回戦敗退		
大竹麻衣子 1回戦敗退		
剣道部		
インターハイ県北大会		
男子団体 第4位		
女子団体 第7位		
男子個人		
佐藤直道(3 7)		
千代間祥之(3 2)		
ベスト16		
女子個人 齋藤 和(2 5)		
第3位 齋藤桃子(3 8)		
ベスト8		
インターハイ県大会		
男子団体 ベスト16		
女子団体 1回戦敗退		
男子個人		
佐藤直道 千代間祥之		
2回戦敗退		
女子個人		
齋藤 和 3回戦敗退		
齋藤桃子 2回戦敗退		
県総合体育大会県北大会		
男子団体 第5位		
女子団体 予選リーグ敗退		
男子個人		

金子瑛(27) 佐治慧太(26) ベスト8
 女子個人 齋藤和(25) 第4位
 県総合体育大会 男子団体 1回戦敗退
 男子個人 金子瑛 2回戦敗退
 佐治慧太 1回戦敗退
 女子個人 齋藤和 2回戦敗退
 新人戦県北大大会 男子団体 4位
 女子団体 4位
 男子個人 金子瑛(27) 第3位
 小島圭史(22) 第9位
 女子個人 齋藤和(25) ベスト8
 新人戦県北大大会 男子団体 ベスト8
 女子団体 1回戦敗退
 男子個人 金子瑛 ベスト16
 小島圭史 2回戦敗退
 女子個人 齋藤和 2回戦敗退
 選抜大会県北大大会 男子団体 3位
 女子団体 4位
 選抜大会県北大大会 男子団体 2回戦敗退
 女子団体 1回戦敗退

水泳部

インターハイ県北大大会 男子400R 第4位
 200背 第6位 吉田雄基
 他予選通過し県大会へ
 インターハイ県大会 200M自由 第9位 菅野修平
 県大会出場・予選敗退
 100M背 吉田雄基

50M自由 小関大博・菊田了介
 200M自由 阿部翔一・齋藤倫大
 400M個人× 塩原芳樹
 県総合体育大会 200M自由 第9位 菅野修平
 県大会出場・予選敗退
 200M自由 吉田雄基・塩原芳樹・齋藤倫大
 50M自由 芦野洋樹・小関大博・菊田了介
 400M自由 菅野修平・齋藤倫大
 新人戦県北大大会 400MR 第11位
 200M自由 第6位 菅野修平
 予選通過・敗退
 50M自由 芦野洋樹・小関大博・菊田了介
 200M自由 塩原芳樹・齋藤倫大
 100M背 吉田雄基

柔道部

県北高校体育大会 男子団体 第3位
 女子団体 第1位
 男子個人 60kg級 第1位 佐藤崇人
 73kg級 第3位 門馬悠成
 81kg級 第3位 千葉寛史
 81kg級 第1位 三瓶靖幸
 90kg級 第2位 國分直樹
 100kg級 第1位 阿部雄一
 女子個人 63kg級 第2位 佐藤季奈
 70kg級 第1位 齋藤きょうか
 81kg級 第1位 日下部典子
 県高校体育大会 男子団体 ベスト16
 女子団体 ベスト8
 男子個人 66kg級 ベスト8 菊田優亮

山岳部

インターハイ県北大大会 東吾妻山系 3P参加
 インターハイ県大会 東吾妻山系 3P参加
 新人戦県北大大会 東吾妻山系 2P参加
 新人戦県大会 只見 浅草岳 2P参加

81kg級 ベスト8 三瓶靖幸
 100kg級 ベスト8 阿部雄一
 女子個人 70kg級 ベスト8 齋藤きょうか
 78kg級 第3位 日下部典子
 県総合体育大会県北地区予選 男子個人 次鋒の部 第1位 千葉寛史
 中堅の部 第3位 三瓶靖幸
 副将の部 第1位 國分直樹
 大将の部 第3位 金木健司
 女子個人 中堅の部 第2位 齋藤きょうか
 大将の部 第1位 日下部典子
 県総合体育大会 男子個人 副将の部 ベスト8 國分直樹
 女子個人 大将の部 ベスト8 日下部典子
 県北新人大会 女子団体 第2位
 女子個人 48kg級 第2位 後藤芽衣
 63kg級 第2位 佐藤季奈
 70kg級 第1位 齋藤きょうか
 78kg級 第1位 日下部典子
 県新人大会 女子団体 ベスト8
 女子個人 78kg級 第2位 日下部典子
 全日本ジュニア福島県予選 81kg級 第3位 三瓶靖幸
 78kg級 第1位 日下部典子
 全日本ジュニア東北地区予選 78kg級 ベスト8 日下部典子

●文化部

合唱部

県北地区音楽祭 出場
 第5回定期演奏会 実施
 福島県音楽祭 出場
 福島市制100周年記念賛歌 レコーディング 参加
 福島市制100周年記念式典 参加
 福島県合唱コンクール 銅賞
 福島県高等学校総合文化祭 アトラクションおよび閉会行事合唱担当
 福島県音楽アンサンブルコンテスト 福島東高校A 優良賞
 福島東高校B 優良賞
 福島東高校C 銅賞
 オペラ「ラ・ボエーム」公演 参加
 吹奏楽部 福島北高・福島東高・郡山高・喜多方高シヨイントコンサート 参加
 吹奏楽部 県北地区音楽祭 出場
 福島県音楽祭 出場
 福島市制100周年記念賛歌 レコーディング 参加
 福島市制100周年記念式典 参加
 福島県吹奏楽コンクール 県北支部大会 参加
 高等学校1部 金賞代表
 高等学校2部 金賞
 福島県吹奏楽コンクール 高等学校1部 銀賞
 老人介護施設訪問 参加
 きらめきレクチャーコンサート 参加
 福島県アンサンブルコンテスト 県北支部大会 金賞代表
 サックス4重奏 金賞
 金管8重奏 銀賞
 クラリネット6重奏 銀賞
 オペラ「ラ・ボエーム」公演 参加

写真部

福島県高等学校総合文化祭写真展 出品
 福島県高等学校文化連盟写真専門部県北支部写真展 出品
 書道部 第52回福島県たなばた展 奨励賞 2年 古俣舞子
 2年 渡邊由貴
 学校奨励賞受賞
 県総合文化祭 第42回福島県高校書道展 優秀賞 2年 逸見真紀子
 1年 渡邊 悠
 1年 野木桃子
 演劇部 県北地区高校演劇連盟春の発表会「この物語はフィクションです」(創作)上演
 県総合文化祭 アトラクション、演劇部門発表出場
 県北地区高校演劇連盟 秋のコンクール 「トシドシの放課後」(既成)上演



平成20年度(27期生) 部活動を終えて

生徒会

生徒会での仕事を後輩へ引き継ぎ、長い時間が過ぎました。生徒会の仕事を終えた時は、少しの安心、達成感と後輩達への引き継ぎがきちんと出来たかという不安を感じていました。しかし、不安の方は、私の取り越し苦労にすぎず、後輩達はしっかり活躍しています。

生徒会役員を終えて、私を感じるのには、どんなことでも、様々な人の協力と理解があつて成り立っているということ。未熟な私が、半年もの間生徒会長を務めることができたのも、私を支えてくれた多くの人がいたからこそです。兼部していた私は、部活動でも、生徒会でも、多くの場面で迷惑をかけてしまいました。周囲の人々のおかげで、無事、任期を全うすることが出来ました。

この場を借りて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

(安田万佑子)

野球部

日が傾くのが早くなり、気温も上がらず、野球の季節は過ぎようとしています。野球部員にとつてこれからの季節は、大好きな野球ができなく、辛い、体力づくりの日々が待っています。そして冬を越して春、今まで我慢せざるを得なかった野球ができる喜びに、胸を踊らせます。

僕が部活動を終えて感じるのには、このことが人生に関係が深いということ。いつでも楽しいこと嬉しいことは続かないと思います。辛いことや、嫌なことを乗り越えてこそ、その先の喜びが何倍にも、何十倍にも感じられ、大切なものだと思えるのです。

どんなに辛いことも、仲間と協力して乗り越えていき、よりよい将来へと繋ぐことができるということ。部活動を通して実感し、これからもそれを生かしていけるだろうと確信しています。

(草野 凌)

サッカー部

平成二〇年十一月一日、僕達サッカー部は全国大会出場を懸けた決勝を戦った。最高のピッチで、最高の仲間達と、最高の

応援を受け、僕は最後まで全力で戦った。憧れていた黄色のユニフォームを着て試合に出る選手、ベンチから声を出す選手、応援をする部員、みんなが自分ができることをやり切った。このチームワークが東の良い所だと思う。結果としてこの試合が三年生にとつて最後の試合になった。

サッカーを通して僕は、多くの物を得た。先生が言ったようにそれをこれからの人生に活かすのが大切だ。後輩達には、今日の経験を活かして来年は全国に行ってもらいたい。福島東高校サッカー部が全国ベスト8の壁を打ち破り国立のピッチで戦う日を楽しみにしています。最後に、僕達を支えてくれた、保護者、先生、みんな本当にありがとうとございました。

(久能 翔悟)

卓球部

終わつたんだなあ。そう思ったとき、部長という重大な役割を終えることができ、正直ホッとしました。自分が最後まで部長をやり続けることができたのは、仲間たちと顧問の先生方の支えのおかげだと思います。

仲間たちと分かち合った、勝ったときの喜び、負けたときの悔

しさ、仲間たちとの青春が詰まった第二体育館での練習。どれもまだ鮮明に覚えています。真夏の第二体育館がサウナのように暑くなることも、忘れることはないでしょう。後輩たちと過ごした時間もかけがえのない思い出です。

この部活を通して、自分は仲間の大切さを深く知ることができました。最後に、渡辺吉城先生を始め、川久保直子先生、島貫千穂先生、部活のご指導ありがとうございました。

(幕田 哲也)

陸上競技部

間近に迫った大学入試を前に、私が今感じること、やはり二年半の部活動をやり抜いたことが受験勉強にもプラスとなっているということ。部活動に關しては、私は目標を達成できず、笑って引退することができませんでした。しかし、引退した後は部活で結果を残せなかった分受験で勝とうと、うまく方向転換することができました。

きつと部活をやっていないければ、今の私には誘惑に負けない集中力、連日の課外を耐えぬぐ体力、勝つ氣を失わない精神力はなかったと思います。部活をやったときに良かったと感じています。

しかし、陸上で勝てなかった悔しさは忘れることはできません。どの大学へ行くことになるかは分かりませんが、自分の可能性を信じてこれからも競技を続け、目標を達成したいと思えます。

女子バスケットボール部

部活動を引退して数カ月が経ちました。時々無性にバスケがやりたくなります。

部活動をしていた時は辛いことももちろんありました。しかし今思い出すとそれすら懐かしく、よい思い出です。こんな風になつてきてよかつたと思えるのは、仲間や先生方と共に一杯部活に取り組んでくれたからだと思えます。

東高女子バスケット部には、自信、冷静、集中」という言葉があります。今、三年生は毎日受験勉強で苦しい日々を送っています。しかし部活でつちかした粘り強さや目標をかがげそれに対して全力で取り組むことの大切さ、そしてこの言葉を胸に乗り越えていきたいと思います。

高校生活も残り少なくなつた今、この東高校で、三年間あの仲間たちと共に部活動に励めたことを本当に幸せに思います。

(佐藤美紀子)

男子バスケットボール部

僕らの練習は、毎日同じことの繰り返し。嫌になるほどグラウンドを走った。バスケットはよく走るね。その他の部活から言われるほど走った。これが僕たちが全国大会に出場できた一つの理由だと思つ。もう一つ、僕たちは最後まで諦めなかった。先生を信じ、仲間を信じ最後の最後まで諦めなかった。毎日同じことが繰り返される練習が後に大きな力となり、最後まで諦めない心と合わさることで更に大きな力となって結果に表れた。

どうだろう。受験にも同じことが言えないだろうか。朝早く起き朝課外を受け、授業や放課後課外でセンター演習を繰り返す毎日。辛い。でも、周りのみんなだつて同じ状況。だからがんばれる。最後まで諦めずがんばろう。大学受験と言つ名の全国大会を勝ち抜くために。がんばろう三年生。

(阿部 幸介)

柔道部

柔道部に所属して過ごした年月は、長いようで短いものでした。残念ながら良い成績を収めることはできませんでしたが、とても得るものが多い三年間で

した。

部活動を通して学んだことの一つは、仲間というものの大切さです。お互いに支え合つて練習してきた仲間は、練習中はもちろん、一対一である試合のときでさえ、いてくれるだけで心の支えになりました。また、目標に向かつて努力する大切さも学びました。努力をしても目標が絶対達成できるとは限りません。しかし、努力をしていく過程で多くの得るものがあり、それらはどれを取っても大切なものばかりでした。

この三年間は本当に充実していて、とても勉強になりました。そして、この三年間で学んだことを大切に、これからの生活に活かしていきたいです。

(北村 源規)

剣道部

私達剣道部は、最後の大会のインターハイ予選大会で、男子団体に準優勝することができました。また、女子個人でも見事三位に入賞した。そして、福島東高校剣道部の歴史において、初めて団体での東北大会出場を果たした。もちろん、ここまでこれたのは、顧問の佐久間先生をはじめとする今までご指導して下さいました先生方や、先輩方のおかげである。

かげである。

二十七日生の剣道部は、本当に良くやってくれた。男子は、人数が多くて全員が個人戦にすら出場することが出来なかった。逆に女子は、人数が集まらず何度も悔しい思いをしてきた。しかし、そんな厳しい状況にも彼らは負けなかった。本当に、福島東高校で剣道が出来たことを誇りに思う。後輩達には、我々も成し遂げることが出来なかった目標に向かつて、突き進んで欲しい。

(金子 瑛)

弓道部

私は先輩方と出た高体連の団地で、あと一本が足りず県大会に出場できなかった悔しい思いを経験しました。団体では、緊張とプレッシャーで思うような射ができず先輩方にたくさん迷惑をかけてしまいました。でもこの体験があったからこそ、その後の練習で目標をもてたし、うまくいかずつらいときも県大会にみんなと出たいという気持ちでがんばれました。最後の大会ではあまりいい射ができなかったけど、後悔はないし、弓道部に入つてよかったと思えました。最後に、先生方や先輩方にはとてもお世話になりました。あ

りがとうございました。一・二年生のみんなは、人数が多いうえに道場が狭くて大変だと思えますが、時間を有効につかひながら団結していい弓道部を築いてください。道場が大きくなるといいね。

(佐藤 尚美)

女子バレーボール部

今、改めて女子バレー部として活動していた頃のことを思い返すと自分の生活は部活中心に回っていたんだなあと身にしみて感じる。体調が悪くても部活があるからと学校へ行き、部活を何よりも優先した。そんな生活の中心であった部活を引退したばかりのときは、どこか物足りないような、気持ちが引き締まらないような気がしたりもした。それほど夢中になり、頑張ることが出来たものがあつた私は幸せで、一つのボールを追いかけた仲間と苦しいことや辛い練習を乗り越えたことは、これからの生活で大きな力になっていくだろう。大好きなバレーボールを最後まで続けられたのは、バレー部のみんなや私たちを信じてくれた先生方、保護者の方たちや応援して下さいましたおかげなので感謝しています。

福島東、一、二、三、死守!!

男子バレーボール部

顧問の遠藤順一先生をはじめ、たくさんの人に支えられてきたが、最後まで部活を続けてくれたのは公普君がいたからだ。彼はとつても素直で頑張り屋だ。バレーに対する熱意も半端ではなく誰よりチームを引っ張った。毎日厳しい部活だったが、目標に向かう彼の姿があつたから僕は部活を続けてくれたように思う。僕も現状に満足することなく、夢に向かつて頑張りたい。

(佐藤 陸丸)

女子バドミントン部

何もわからないまま試合に出た所から、高校での部活動が始まりました。一年生の時はただ必死でしたが、徐々に先輩とも先輩とも打ち解け、毎日笑い、ストレス発散の場になっていたようにも思います。部長になつてから、辛くて逃げ出したくなく、自分達でメニューを考えるようになり、一日中部活のことを考えている日もありました。トータルで見ると大会で大きな結果を残すことができたわけではありませんが、それぞれが最後までやり遂げることが出来たのは、

(遠藤 有麻)

支えてくださった顧問の先生方や仲間のおかげだと思います。

部活動を終えた今、仲間や友達が出来たバドミントンは、私の高校生活において一番充実していた時間だったと思います。

(前田 有希)

男子バドミントン部

部活動を終えて、心に残っていることといえば楽しかったという思い出しがありません。バドミントン部は楽しい部員ばかりで、毎日笑いがたえませんでしたが、そういう中でも、真面目にやる時は、一人一人目標をもって練習に励んでいました。最後の大会も自分達が目標とする結果は残せなかったけど、このバドミントン部のみんなで部活をできたので良かったと思います。本当にバドミントン部に入って良かったです。この部活に入っていないかったら今の自分はないと思います。部活動で身につけたものを勉強に生かしていきたいです。

(菊地 龍人)

女子テニス部

今思い返せば、自分はよくあんな激しいスポーツをやっていたなと思います。真夏の炎天下の中で走り回り、雨や冬でも半袖のユニフォームで試合をしたりなど、今ではもう考えられません。

でもそんなテニスを最後まで続けてこれてよかったと思っています。苦しいことがあっても、あの超個人的なメンバーにたくさん笑わせてもらい、スランプになっても、顧問の先生方に丁寧に指導していただいて、本当に充実した三年間を過ごすことができました。

これから先の女子テニス部は、さらに個性的後輩達に託し、私達三年生は部活動での経験を生かして、それぞれの夢に向かって努力していきたいと思っています。

(浅和 唯)

男子テニス部

僕にとってテニスは高校生活そのものだ。硬式テニスはまったくの素人で入部したが昨日のこのように思いだされる。一見貴族なスポーツだが、むしろ戦争を連想させる過酷さがある。梅宮先生との練習で弱音を吐かなかったことはなかった。

そのような部活を、三年間やり通せたことで、中学生だったころの自分に無かったものを得ることができたと思う。またそれができたのは、熱心に指導してくれる先生、本気の球を打ちこめる先輩、くやしいくらい強い後輩、応援してくれる方々、そして要領の悪い僕を支えてくれる同級生の存在があったからだと思う。テニスは色々なことを僕に与えてくれた。根性と思いつと最高の仲間を。得たものすべてと、与えてくれたみんなとテニスそのものにありつただけの誠意を込めて感謝したい。そして早くテニスがしたい。

(香野 拓也)

水泳部

僕は、二年半の間水泳部で活動してきました。この期間は長いようでとても短い期間だったと思います。

今年が部員全員が県大会出場。一人が東北大会出場という良い結果を残すことができました。これは部員全員が向上心と確かな目標を持って部活動に励んだ成果だと思っています。

水泳は自己の記録を更新していくことが目的の競技です。いわば自分と戦う競技だと思えます。これは受験勉強にも共通する

ことだと思っています。

受験までは残りわずかになりましたが、部活動を通して学んだことを活かして自分との戦いに負けないように、そして自分の目標を達成できるように、一層努力していきたいと思えます。

(斎藤 倫大)

山岳部

部活を引退してから数ヶ月が経ちました。この三年間を振り返ってみると、雪上幕営や炊き方をミスった飯、しんどかった合宿、大会中に「雨降れ」とか「早く終われ」とか祈っていた事などの楽しかった事や辛かった事の多くが、自分にとってとてもいい経験になりました。

また自分はこの部で本当にいい先輩達に巡り合えたと思います。常に自分等後輩に優しく接し面倒を見てくれた事に感謝しています。

それに、こんな部長についてきてくれた同じ釜の飯を食った仲間達にも感謝しています。

今年が勝ちに行くと言って挑んだ最後の県大会で結果を残せなかったのは少々心残りですが、彼らと挑戦できてよかったと思えます。

最後に、影ながら自分達を支

えてくれた顧問の先生方、三年間ありがとうございました。

(松本 裕之)

ハンドボール部

部活を引退して六か月が経つた今、思い返してみると毎日のように先生に怒られ、走り、筋トレをしていてとてもつらかったことを思い出します。しかし、仲間がいたからつらい練習にも耐え、充実した部活ができたのだと思います。

僕たちの代は、去年の県大会優勝など優秀な成績を残すことは何一つなく、弱いチームでありましたが、それでも先生や先輩方は熱心に指導してくれました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

この三年間の活動でとても大切なことを得ました。それは、感謝の気持ちを持つことです。二年生、一年生、感謝の気持ちを忘れずに部活をやってほしいです。そして、インターハイに出場することを心から願い、応援しています。

最後に、一年間こんな頼りない部長についてきてくれて、本当にありがとうございました。

(瀬川 耕也)

ソフトボール部

部活動が終わって半年が経ちました。半年前のあの日、僕達は一次リーグ敗退という残念な結果となってしまいました。

県大会では良い結果は出ませんでした。試合では僕のすべてを出しきれたと思います。最後の試合は決して忘れられないものになりました。練習を通して築き上げたチームワーク、試合に勝ったときの充実感、負けたときの悔しさをバネにして頑張ろうとする気持ちなど、様々なことをソフトボールは僕に教えてくれました。

これからの受験に向けて今までの経験を土台にして、最後まであきらめないで頑張っていきたいと思います。ソフトボールを続けてこれてよかったです。

(塩谷 昌之)

ダンス部

楽しかったダンス部生活も、今年の夏に終わりました。

これまでの三年間に部に昇格したり、テレビに出演してマエケンに似てると言われ複雑な心境になったり、七転八倒しながら発表会をしたりしました。その中で、後輩の皆や先生方にたくさん御協力して頂きました。

本当にありがとうございました。そして御迷惑おかけして、本当にすいませんでした。

そんなダンス部生活はかけがえの無い物で、後輩たちの「踊ることが楽しくてしょうがないです。」という発言を聞いた時は、本当に嬉しくなりました。正直色々と心残りではありますが、後は身も心も若い後輩たちに託したいと思います。

(奥田 洸希)

演劇部

「部活動を終えて」という題で原稿を書くのは一時間分の演劇台本を書くより数倍難しい。

というのも、脚本は割と気楽に好き勝手書けるのだが同窓会会報原稿ともなるとそうはいかない。それでは真面目に、真面目に。…極力。

演劇部での活動は、たった一人の後輩君が殆ど頑張っていてくれていた。先輩が抜けた後は女子三人、男子一人という何とも寂しい人数にプラスして伊藤先生とひろみ先生の計六人であった。大会本番よりもむしろ大会前の方が随分楽しかったように思える。ここに書ききれない程度活動場所である放送室には思い入れがたくさんあったりする。

いやはや、本当沢山迷惑をかけた

ました後輩君。そして残り二名の三年女子、偉大なる先輩方、先生方に感謝を示したい。余談だが演劇脚本を書いた事がない件は内緒にしておこうと思う。

(永瀬 由佳)

吹奏楽部

今、これまでの高校生活を振り返ってみると、本当に部活一色だったように思います。平日も休日も毎日部活で、たまに休みがあるとうとう過ぎていいかわからなくなるほどでした。この部活はとにかく人数が多いため意見がまとまらないことも多く、そんな現実から逃げ出したくなることもありました。しかし、それを乗り越えて皆で一つになって頑張れたときはとても大きな喜びがあったし、部活をやっているよかったですと思う瞬間でした。本当にこのメンバーで部活をやれたことを幸せに感じています。

こうして私たちが部活に打ち込むことができたのは、周りの人たちの支えがあったからに他なりません。先生方、家族、先輩方、他にも吹奏楽部に関わった全ての人に感謝しています。本当にありがとうございました。

(野地 千尋)

合唱部

今回この原稿を依頼されて改めて私が合唱部員として過ごしてきた日々を思いだし、とてもあたたかい気持ちになりました。歌が好きという理由だけで合唱の「が」の字も知らずに入部届を提出した私がこの三年間で部活を通して得たものは数えきれないほどのものとなりました。

三年次に関して言えば、念願の東北大会入賞を果たすことが私たちの努力に加え顧問の星先生や羽賀先生の支援、そして応援してくださった方々のおかげで果すことができました。部活を引退して一番心に浮かんだのは「満足」の二文字でした。そして言動と行動がともなわない私は部員にとって「偽善者」だったかもしれない。最後まで、私についてきてくれた部員のみんなありがとう。私にとつてあの小さな部室ですごした日々は宝物です。

(谷口ひとみ)

美術部

「楽しく絵が描ければいいなあ」と思い美術部に入部して三年間が過ぎました。思い返すと辛いこともたくさんありました。思い通りに描けなくてイライラ…

作業が進まなくてイライラ…。おかげで忍耐力が付きました。三年生から始めたデッサンは思いのほかハードでした。朝もお昼も放課後もデッサン…デッサン…。肩がこりました。こんな辛い状況も投げ出さなかったのは顧問の片平先生の熱心な指導と、部員の励ましがあったからだと思います。本当にありがとうございました。

今や私にとって美術は切っても切れない存在になりました。寝ても覚めても絵のことばかり考えてしまうようになってしまいました。美術部に入部していなかったら今の自分にはなっていないかただろうと思います。東高の美術部に入部してよかったです。

(佐藤しおり)

写真部

私の写真部として過ごした時間はとても充実していました。どうしても個人での活動が多くなってしまう中でも、共に高め合い、励まし合える仲間を得ることができました。また、顧問の先生方には一対一の指導をいただいたりと一つ一つの活動が本当に濃いものでした。そしてその活動では、自分が納得するまで何枚も写真を撮ったり、

何度も現像したりと飽きっぽい私には苦難の連続でしたが、忍耐力を学びました。それは今、受験生である私にとって必要不可欠なものでもありました。カメラや現像の技術は将来、直接的に活かすことはできないかもしれませんが、部活で得た仲間や学んだことは、私の一生の宝物です。最後に今まで部長になった私を支えて下さった顧問の先生方、部員、両親や友人に本当に感謝です。

(西戸 伶奈)

書道部

眉毛が太いか細いかだけでも人の印象は変わりますよね。少しの変化でも与える印象は変わってくる。そしてそれは書道でも同じなのではないか、それを気付かされたのが書道部での三年間でした。

同じ字の作品であっても、書く人によって文字の配置や線の太細、濃淡の違いで全く異なる顔になる書道は、本当に奥深いです。十人十色と言うように、書く人各々のセンスと性格が出ていると思います。そして私はみんなの作品を見て、この人はきつとこんな性格だろう、ふは、と一人妄想に浸って楽しんでいました。

最後になりましたが、書道部の活動を通して、物事を色々な角度から見ることができました。人の感性は一人一人違うので、万人から賞賛される作品を書くのは果てしないことですが、がんばりたいです。

(逸見真紀子)

英語同好会

今までの活動内容を振り返ると、思い浮かぶのは、プレント先生とみんなで雑談したことばかりで、部活動という感じはしませんでした。でも、私はこの自由な雰囲気が好きでした。私が一年生の時、初めてプレント先生に会って、緊張して全然話せなかったのが嘘のように、今では何の抵抗もなくコミュニケーションがとれるようになりました。これは大槻先生とプレント先生がフレンドリーだったおかげです。大槻先生と話した世間話やプレント先生の恋愛事情、とても楽しかったです。ありがとうございました。それから、部が存続の危機の時入部した一年生にも感謝します。なんとか存続させてください。

(丹治奈津季)

応援団

自分はこのなにも未熟であるにも拘らず、福島東高等学校応援団長という役職を授かり、初めは困惑もあつたが、後輩の支えもあり、何とかやり遂げる事が出来た。こんな自分について来てくれた後輩と指導して下さった先輩方、そしてあまり経験の無い一年生ばかりだったながらも頑張ってくれたプラスパ

ンドの諸君には感謝してもしきれない程である。他の部とは異なるこの応援団で過ごした三年間は自分をあらゆる面で強くしてくれたと思う。応援歌講習では恐怖という形では福島東高校の伝統を伝えられなかった事を少し後悔している。

しかし、一年生には人から伝えられるのではなく、自分の目、耳、肌で伝統を感じ取り、そこ

に諸君の新たな伝統を残して欲しい。以上。

(穂波 司)

平成20年度在校生支援事業

1. 運動部支援 (83万円)

- ・ウェイト器材整備 83万円

2. 文化部支援 (17万円)

- ・吹奏楽部 定期演奏会支援 (5万円)
- ・合唱部 定期演奏会支援 (5万円)
- ・美術部 「桜美展」支援 (3万円)
- ・ダンス部 発表会支援 (2万円)

3. 全国大会出場(平成20年度埼玉インターハイ)への激励金について

- ① 男子バスケットボール部(男子) 登録数14名×3万円=42万円
*昨年度より8万円までの追加支援を同窓会長の判断で行うことが了承されました。最終的に8万円の追加支援を行い、総額50万円を支出しました。
- ② 女子柔道部(個人) 日下部典子 2万円
- ③ 美術部(個人) 阿倍 礼 3万円

4. 贈呈式について

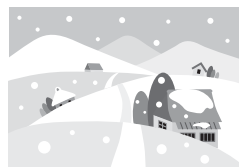
平成20年7月18日、第1学期終業式の後に、尾形会長にご出席いただき、全国大会へ出場する部活動への激励金の贈呈式を行った。最初に会長から全校生に対し、「君たちの活躍を同窓生一同心から喜んでいる。今後とも文武両道の実現を目指してがんばって欲しい」という言葉がかけられた。次に、3つの部活動に対し、「全国大会では悔いの残らないよう全力でプレーしてくれることを期待する」との激励の言葉があった。最後に、会長から各部長へ激励金が手渡され贈呈式を終えた。

○全国大会等への出場に際しては、同窓会から以下の激励金を支給する。

- ①団体種目 50万円 ②個人種目 1人につき2万円 ③文化部 3万円

☆全国大会への激励金の支給にともなう規定の変更について (要点のみ)

- (従来) 運動部が全国大会(国体は除く)に出場する場合、年度1回に限り、激励金の支給を行う。支給金額は団体種目が50万円、個人種目が1人2万円。
- (改正) 団体種目に関しては、50万円を上限とし、登録数(マネージャーも含む)×3万円を支給する。個人種目は1人2万円。



旧職員あいつ

味原 正美

この春の異動で七年間勤務させて頂いた福島東高校を転出しいわき総合高校に勤務することになりました。

福島東高校では、大学進学もありましたが、バドミントン部女子のインターハイ出場、サッカー部の全国大会等生徒達のおかげで、他の県立高校では体験できないことをさせて頂いたと思っています。

離任式での卒業生の数をみて、教師になってこんなにつれしいことがあったらどうかと感じました。「人が自分のためだけでなく他の人のために使う時間」の素晴らしさ、有難さを卒業生(教え子達)に逆に教えてもらったと思っています。

これからの福島東高校も、生徒と教師の間にさらに豊かなお互いのための時間が流れて欲しいと願っています。創立三十周年さらにその先福島東高校とは今後もかわらせて頂きたいと思っています。ありがとうございました。

平成20年度 転出者

職名	氏名	転出先
校長	深澤 陽一	退職
教諭	森 和重	遠野高校教頭
教諭	味原 正美	いわき総合高校教頭
教諭	菅野 正夫	退職 再任用
教諭	力丸 繁	川俣高校
教諭	遠藤 剛	安達高校
教諭	南條かおる	梁川高校
教諭	深瀬 幸一	橘高校
教諭	八巻 章	原町高校
時間講師	渡辺 大海	白河実業高校教諭
常勤講師	渡辺久美子	郡山東高校教諭
常勤講師	瀬戸裕一郎	安達東高校
常勤講師	植田久美子	白河旭高校

平成20年度 転入者

職名	氏名	前勤務先	教科
校長	猪狩 幸一	いわき市立中央台北中学校	
教諭	円谷 博一	保原高校	英語
教諭	斎藤 毅	川口高校	地歴
教諭	島貫千穂	保原高校	国語
教諭	山下裕一郎	南会津高校	地歴
教諭	渡辺裕子	猪苗代高校	数学
教諭	川久保直子	新採用	数学
教諭	菅野正夫	再任用	地歴
教諭	渡部光子	再任用	数学
教諭	星 和子	再任用	体育
常勤講師	鈴木信哉		理科
常勤講師	遠藤広樹		数学
常勤講師	池田政人		数学
常勤講師	松本昌明		理科
常勤講師	小野塚茂夫		英語
非常勤講師	佐久間明子		英語

平成20年度 教育実習生 (同窓生のみ)

氏名	期生	氏名	期生
菟野 清英	23期	丹治 宏樹	23期
佐々木宏樹	24期	新関 拓也	23期
小林 勇貴	23期	鈴木 良	23期
鈴木 夏美	23期	渡辺みなみ	23期
渡辺 真仁	22期	渡辺 亮	22期
工藤 麻未	22期	二階堂綾子	21期

教育実習生

教育実習を終えて 佐々木宏樹

自分の母校である福島東高校で実習ができ、私は幸せだなと感じました。卒業して、まだ三年も経っていませんが、見るものが懐かしかったです。特に、生徒たちが部活動に真剣に取り組んでいる様子は、自分の高校時代を思い出させてくれました。文武両道をモットーに、これからも部活動と勉強の両立に励んでもらいたいと思います。

実習が始まってすぐは、教壇に立っている自分が不思議でした。約二年前には、椅子に座って先生の話を聞いていた一人なので、生徒側からの視点との違いに最初は戸惑いましたが、気軽に話しかけてくれた生徒たちや先生方のおかげで、次第に慣れることができました。授業では、自分の知識の少なさや、指導力のなさを実感しました。授業を受けていた頃は、授業をするのがこんなに難しいことだとは思っていませんでした。教材研究や授業の進め方など、多くのことを学びました。この経験をいかして、今後の勉強に励んでいきたいと思っています。

部活動にも積極的に参加させてもらいました。サッカー部の人数の多さには驚きましたが、真剣に練習している様子は昔と何も変わりませんでした。それぞれ、いいものを持っていると思うので、現状に満足せず、常に上を目指して頑張っていきたいと思います。四週間の実習は、とても充実したものとなりました。指導してくださった先生方と協力してくれた生徒たちには、本当に感謝しています。たいしたことは何もできませんでしたが、ありがとうございました。これから東高の活躍を期待し、応援していきます。四週間、本当にお世話になりました。

編集後記

毎年秋口にお送りしていた同窓会報が今年も年末まで遅れてしまいました。なんと平成二十年のうちに皆様にお送りしたいという思いだけが空回りし、多くの皆様にご迷惑をおかけ致しましたことお詫び申し上げます。年の瀬のこの忙しい時期に編集・印刷をしてくださった吾妻印刷さんそして担当の大槻さん。年賀状配達の大変な時に郵送準備をしてくださった豊田町郵便局の渡辺局長並びに福島支局の職員の方々、そして急な原稿依頼に多忙な時間を割いて快くご寄稿いただきました皆様、感謝、感謝です。ありがとうございました。これもすべて担当の私の計画性の無さによるものです。どうかご容赦ください。本当に申し訳ございませんでした。さて、今年の同窓会報は学校のホームページにも載せてもらうことになりました。後輩たちの頑張っている姿がよくわかりますので、学校のホームページも合わせてご覧ください。福島東高校同窓会も独自のホームページを持ちたいと考えておりますが、技術面、管理面、経済面、内容等を考えると、何をやらなければならないか見当もつかず、事務局としてもなかなか手を出せません。同窓生の皆様の中で、よいアイデアをお持ちの方がいらっしゃいましたら、ぜひご意見をお寄せください。会報同封のハガキもしくは下記メールアドレス宛にお願いします。